



「100年の確かな歩み、未来を拓く」
1989年・相馬村制施行100周年記念誌

相馬 百年



発刊によせて

明治22年4月1日市町村制施行以来、平成元年度をもって村制施行100周年を迎えることになりました。

特に新元号元年に迎えたことは誠に意義深いところであり、関係各位とともに慶賀にたえないところであります。

この間、先達各位の英知と決断、そしてたゆまぬ努力が、今日のわが村の繁栄の礎を築いたことはまぎれもない事実であり、心から感謝と敬意の念を表わすものであります。21世紀を目前にして、この新しい世紀への旅立ちの時期を迎えた意義ある節目を契機に、新たな発想をもって次代の人たちに誇れる村を残すため、決意を新たにいたしております。

このたび、100周年記念事業の一環として、偉大なる先人の業績を振り返りながら、1世紀のわが村の移り変わりの記念誌発刊を計画いたしました。

連綿と引き継がれてきた100年の経緯を知り得る資料が乏しいところから、厳しい時代を生きてきた人びとの姿を厳密に写し出すことはできませんでしたが、多くの村民各位と各機関のご協力とご支援を得まして不備ながらも発刊することができました。

貴重な資料等を提供して下さった各位に対し、深く感謝を申し上げます。

また、この記念誌中のひとつひとつが後世に時代背景を伝え、現在の認識と未来の発展に大きな指針を与えてくれるものと確信いたしております。

高度化と多岐にわたって伸展する社会構造のもとでの地域づくりは情報、高齢化対策、国際化等の対応技術を考慮し、村の構造改革を推進していく必要があります。

平和な社会で無限の発展があることを村民各位とともに祈念しつつ、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げ、発刊のことばといたします。

平成元年8月1日

相馬村長 山内 一義

目次

2

発刊によせて……………	1	遊びと玩具・祭り与人々……………	48
明治(1868年～1912年)		思い出いろいろ……………	50
相馬村制施行……………	6	印刷物……………	52
りんご栽培と農林業……………	8	暮らしの道具……………	54
学校の思い出……………	10	近隣の市町村……………	56
遊びと玩具・祭り与人々……………	12	新聞記事・広告……………	58
思い出いろいろ……………	14	昭和〈戦後〉(1946年～1989年)	
暮らしの道具……………	16	相馬村のようす……………	60
近隣の市町村……………	18	りんご栽培……………	64
新聞記事・広告……………	20	農林業……………	66
大正(1913年～1926年)		学校の思い出……………	68
相馬村のようす……………	24	祭り与人々……………	70
りんご栽培と農林業……………	26	思い出いろいろ……………	74
学校の思い出……………	28	災害……………	80
お山参詣……………	30	近隣の市町村……………	82
思い出いろいろ……………	32	新聞記事・印刷物……………	84
暮らしの道具……………	34	現在の相馬村……………	86
近隣の市町村……………	36	あとがき……………	91
新聞記事・広告……………	38	この頃の主な出来事……………	7～87
昭和〈戦前・戦中〉(1927年～1945年)		歴代村長……………	88
相馬村のようす……………	40	相馬村の年表……………	88
りんご栽培……………	42	資料提供協力者名……………	4
農林業……………	44	参考資料一覧……………	4
学校の思い出……………	46	スタッフ……………	92

村のシンボル

― 村民憲章 ―

わたしたちは、相馬村民として、先人の築いた歴史と伝統に誇りを持ち、相馬村の未来を拓く担い手としての自覚を高めるためにこの憲章を定めます。



村の花／福寿草

そ

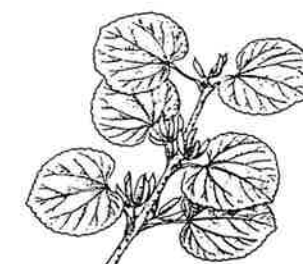
村民一人ひとりの触れ合いを大切にし、安らぎのある住みよい村づくりに努めます。



村の鳥／かつこう

う

美しい自然の保護と活用を図り、活力のある豊かな村づくりに努めます。



村の木／かつら

ま

学ぶ意欲を高め、文化や産業の発展をめざし、夢のある伸びゆく村づくりに努めます。

地形の吊橋(昭和15年)

■資料提供協力者

湯口

溝江 トスエ 溝江 修一
山内 定雄 山内 明
沢田 健助 溝江 貞真
沢田 鉄雄 成田 京一
溝江 熙 下山 幸雄

溝江喜代作

黒滝

成田 公正 種沢 秋夫
成田 直助 成田 功一
三上 俊男

五所

沢田文五郎 沢田 国雄
田沢千代美 田沢 正治
小山 衛 成田 良治
山内 一義 田沢 徳雄
田沢 利秀 山内 清衛
菖蒲川春良 成田 良一
田沢キヨエ 工藤 正則
山内 正身 三浦 正雄
山内喜代治 田沢 勝衛

水木在家

三上 博 三上 覚
斉藤 広光

紙漣沢

三上 義直 三上 美磨
小山内徳一 大場 忠
大場 良一 范 勝晴
大場 儀一 田中 重
大場 昭善

坂市

三上 泰男 三上 邦雄
三上 健生 三上 直一
三上 一 三上 聡
三上 左吉 三上 道広

藤沢

福島 隆 福島 憲栄
宮川 寛 宮川 文雄

相馬

三上 チヤ 清野 豊吉
栗形 松代 花田 春雄
古川喜代作 中沢喜一郎

前相馬

中島 聡 柴田 勝義
中島 悦見 今井 光孝
米沢 一雄

桐ノ木沢

福田 鍵三 三上友成

山田

成田 実 中沢 均
中沢三千男 成田 セツ
大沢 清一 中沢 秀義
花田 サタ 蝦名 市雄
中沢 春一

大助

成田兼三郎 佐藤 逸見
佐藤 秀雄

藍内

成田 等 福田 富雄
三上 輝男 三上 久雄
今 惣太郎 佐々木武雄
今 義雄

沢田

大沢 勝雄 菖蒲川きし
福沢 昭美 大沢 清三
田中 善雄 大沢 昭夫

弘前市

山田 信男

制作協力

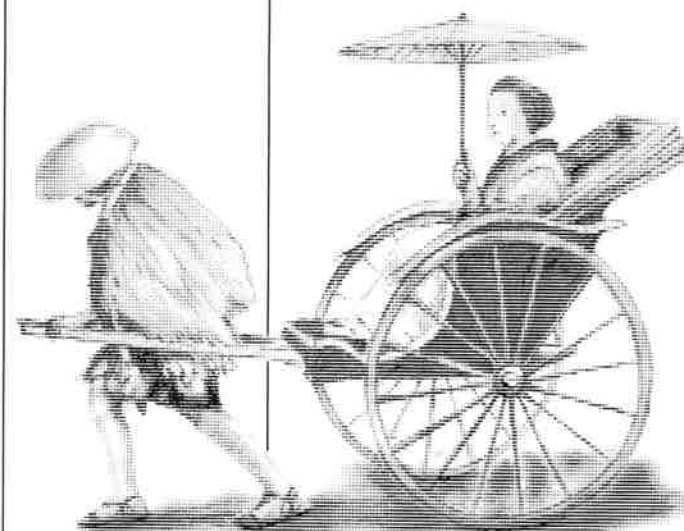
青森県立郷土館
青森市森林博物館
弘前市役所
岩木町役場
弘前地区農業改良普及所
水木在家公民館
相馬郵便局
相馬村農業協同組合
弘前警察署相馬駐在所
東奥日報社

■参考資料

青森県の百年（山川出版社）
あすなろ百年・ふるさとと
青森銀行（青森銀行）
ふるさとのあゆみ弘前Ⅰ・
Ⅱ・Ⅲ（津軽書房）
チラシ広告に見る大正の世
相・風俗（ビジネス社）
オモチャコ（青森県児童文
学研究会）
近代日本総合年表（岩波書店）
写真弘前九十年（弘前市役所）
東奥年鑑（東奥日報社）
相馬村誌（相馬村）
相馬村史（津軽書房）

明治

一八六八年～一九一二年



明治政府は封建的な諸制度を解消するため、さまざまな政策に着手しました。明治4年の廃藩置県もその一つで、青森県の政治の舞台は弘前から青森へ移り、次々と大きな改革が行われていきました。特に明治22年は相馬村にとって記念すべき年になりました。2月に大日本帝国憲法が発表され、4月には市町村制が施行されたのです。それまでの政治は藩主の命令に人々が従うという形でしか行われていませんでしたが、これにより地方にも自治権が認められることになりました。相馬村はこの時に紙漣沢・五所・水木在家・坂市・藤沢・相馬・大助・沢田・藍内の9大字が合併して誕生、間もなく湯口と黒滝が加わり、11大字で構成される自治体となりました。



●村制施行後の相馬村誌



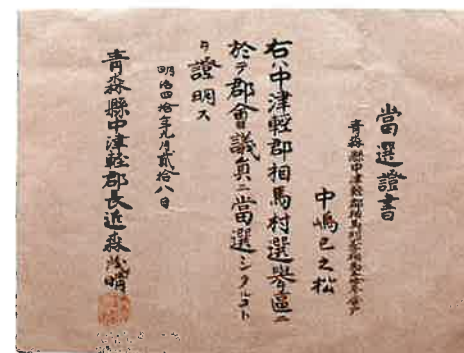
●明治27年発行の世界地図



●地券 土地の所有権を証明した証券



●市町村制註釋 明治28年発行の註釈書



●郡会議員当選証（明治40年）



●大福帳 売買の勘定を記す元帳（明治11年）



●明治時代に発行された貨幣

この頃の主な出来事

明治8年（1875）

- 1月 宮城・青森・酒田3県の士族を募り北海道屯田兵とする。
- 10月 勸業寮、青森県にりんご苗木75本を配布。

この年▶全国の小学校2万 4,225校に達し、ほぼ全国町村に設立。
相馬でも湯口に石堂小学開校。

明治9年（1876）

- 4月 1日から満20年をもって成年とする。
- 7月 **相馬小学・紙漣沢小学開校。**
- 9月 青森に小学師範学校開設。
- 10月 各区町村金穀公借・共有物取扱・土木起工規則を定める（区町村の自治体的性格の承認）。

明治10年（1877）

- 3月 青森県で初めて「北斗新聞」発行。
- 11月 租税未納者の身代限処分を廃止し、財産公売・営業停止の法を定める。田租の半額を米で代納することを当分許す。

この年▶兵庫県の丸尾重次郎、稲の新品種「器量良」を「程善」から選抜（のち「神力」と改称）。

明治11年（1878）

- 7月 郡区町村編制法制定、府県会規則・地方税規則とともに三新法制定。
- 10月 青森でも郡制施行により津軽郡を東西南北に分ける。

この年▶日本髪 of 婦人に防寒用としてお高祖頭巾が流行。

明治12年（1879）

- 1月 青森県最初の県会議員選挙。
- 3月 公選議員による第1回県会。
- 12月 文部省、師範学校を経ずに公立小学校教員となる者に対し、府県でその学力を検査するよう命ずる。

明治13年（1880）

- 4月 青森県公立学校設立条例制定。
- 5月 弘前に大火、1,500戸を焼失。
- 10月 宮内省「君が代」を作曲、11月3日初演奏。

明治りんご栽培と農林業

相馬村では米は平年作でも収量が上がりず副業に頼っている状態で、ケラやテケシ・ワラジなど藁製品を作ったり、炭を焼いたりしていました。村の3割以上の人たちが炭焼きをしていたほどです。しかし明治45年の物価では米1俵が木炭64俵ぶんに当り、炭焼きも藁製品作りも期待するほどの収入にはならなかったようです。青森県のりんご栽培は明治8年、勸農政策にもとづき政府から配布された苗木を弘前で試植したのが第一歩でした。相馬村では明治30年頃から栽培され、初めは庭先や家の近くに植えられていました。このりんごは在来の和りんごと比べて果実が大きく味も良いと評判で、栽培する農家も少しずつ増えていったのです。



●すりうす すって、もみからを取ったり粉をひいたりする



●藁てけし・草鞋 藁製の作業用手袋と、最も普通の履物



●干把扱 稲の穂を櫛の歯状のものでしごいで脱穀した



●まんだげら シナノキの皮で作った美しいタテゲラ



●じょうば・槌 麻や綿布を柔らかにするため布を置いて槌で打った



●木材運搬に従事する人たち



●りんご栽培の解説書



●りんご酒会社のマーク

●りんご酒の広告



この頃の主な出来事

明治14年 (1881)

- 5月 文部省、小学校教則綱領を定める。
(小学校を初等・中等・高等に3区分、修身を重視し、歴史は日本史のみとする)。

明治15年 (1882)

- 1月 青森県庁議事堂の洋風新築落成式。青森県測候所開設。
- 4月 音楽取調掛編「小学唱歌集」初編(蝶々・螢の光など)刊行。
- 8月 明治6年のねぶた禁止令を解き新取締規則を制定。
- 12月 郵便条例を制定、料金を全国統一。

明治16年 (1883)

- 7月 コンドル設計の鹿鳴館落成。
 - 12月 徴兵令改正(兵役年限の延長、現役志願制を創設、廃疾不具以外は免役制を猶予制に改正、代人料を廃止)。
- この年▶ブラキストンがブラキストン線の構想を発表、北海道・本州間に動物の棲息分布上一線を画すべきと主張。

明治17年 (1884)

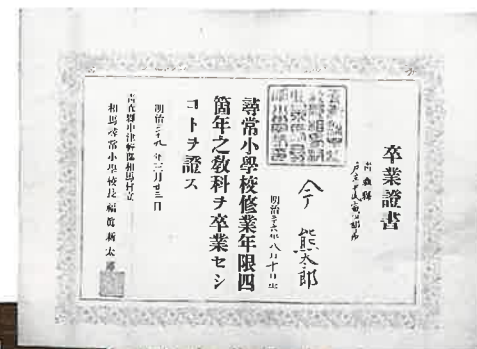
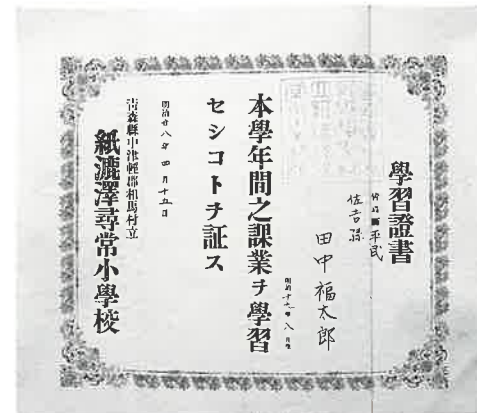
- 2月 学齢未満の幼児の小学校入学を禁じ幼稚園の設立を奨励。
- 10月 青森に県立中学校開校。
- 11月 小学校の教科として初めて英語の初歩を加える。

この年▶丸善、初めて万年筆を輸入販売。上流婦人の間で洋服・夜会着流行。

明治18年 (1885)

- 1月 東京に楽隊を使う広目屋(宣伝広告屋)現われる。
 - 5月 屯田兵条例を定める(北海道に徴兵令施行まで屯田兵をおく)。
 - 8月 文部省、府県立・町村立学校で原則として授業料を徴収するよう指示。
 - 11月 種痘規則を定める。
- この年▶津軽地方のりんご栽培盛ん。青森中学の今教諭、野球を導入。

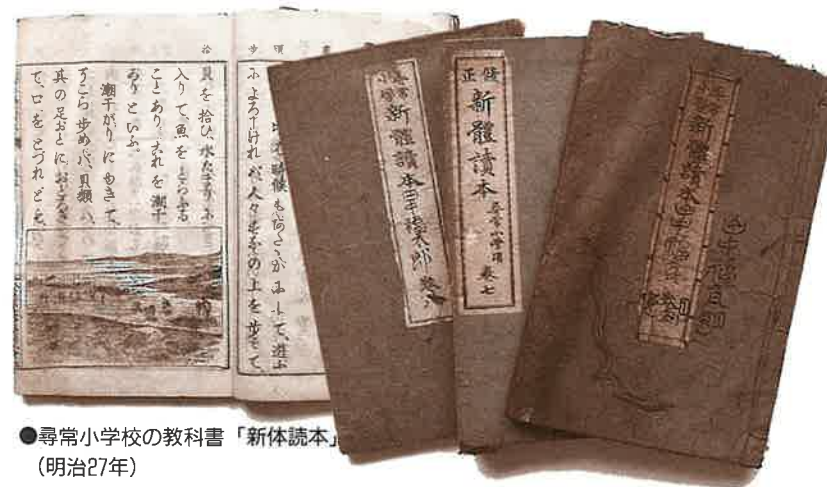
明治5年、新しい時代に合った人を育てるため明治政府が公布した学制には3つの目標がありました。教育の機会均等、義務教育制、実学教育による近代人の育成です。こういった考えが人々に浸透するにつれ教育への熱意が高まり、就学児童も次第に増えていきました。相馬村に学校が開設されたのは明治8年、湯口の石堂小学が最初で、翌年には相馬小学、紙漣沢小学が誕生しています。当時の相馬小学には29名の男子生徒が通学し、士族出身の教員が小学読本・算術・書取・習字・唱歌・体操などを教えていました。3つの学校の連絡は密で、各校単独の運動会のほか、年1回は水木在家や紙漣沢の草山で3校合同の運動会を開催して新陸を深めていました。



●相馬尋常小学校卒業式。校舎は現在の相馬・島口昭男宅



●明治32年創立の玉成高等小学校



●尋常小学校の教科書「新体読本」(明治27年)



●初等英語綴り帳(明治20年)

この頃の主な出来事

明治19年 (1886)

- 4月 師範学校令・小学校令・中学校令、諸学校通則各公布 (第2次大戦直後までの学校制度の基礎となる)。
- 5月 文部省、教科用図書検定条例を公布 (小・中・師範各学校教科書の検定制始まる)。

この年▶前年よりのコレラ再び蔓延、夏・秋にかけて全国的に大流行。八戸地方で1,318人死亡。西海岸で3,774人死亡。

明治20年 (1887)

- 1月 皇后、婦人に洋装を勧告する思召書を下付。以後、上流婦人に洋装ひろまる。
 - 2月 逓信省、T印マーク決定 (程なく千に訂正)。
 - 3月 所得税法公布。
- この年▶トマト、この頃から食用となる。鳥打帽子、商家で使用。弘前で婦人のショール流行。

明治21年 (1888)

- 4月 八戸で大火、547戸を焼失。市制・町村制公布。
- 8月 弘前ねぶたげんかで1人死亡。
- 12月 紙漣沢竜田神社山頂墓地为長慶天皇御陵墓伝説参考地に指定。

この年▶資生堂、福原衛生歯磨石鹼を製造販売 (最初の国産練歯磨)。

明治22年 (1889)

- 2月 大日本帝国憲法発布。東京を始め全国各地で憲法発布祝賀会盛行。
- 3月 国税徴収法公布。
- 4月 市制・町村制施行開始 (青森県では弘前市制施行、青森・八戸・黒石・鰺ヶ沢・三戸が町制施行)。
- 紙漣沢・五所・水木在家・坂市・藤沢・相馬・大助・沢田・藍内の9大字で相馬村誕生。
- 7月 相馬村域に湯口・黒滝が編入。
- 10月 米国チェスボロー号、青森県西海岸七里長浜で遭難。
- 12月 文部省、天皇・皇后の御真影を高等小学校へも下付すると府県へ通知。

男の子はビダ（丸形のメンコ）や剣術ごっこ、女の子はあやこや銀杏の実で作ったおはじきが普段の遊びで、冬はベンジャやソリで坂を滑るのが楽しみでした。玩具のほとんどは店から買ったものでなく、家族の手製だったり、自分たちで作ったものばかりでした。子供も大人も心待ちにしているのが祭りや行事です。相馬村では農耕生活と結びついたお山参詣やほうの神（さなぶりの最中に行なう豊年祭）、ろうそく祭りなどが行われていました。祭りは日常生活や仕事の息抜きになるものですが、とんだ騒動をひきおこしていた祭りもありました。当時弘前のねぶた祭りでは毎年けんかが絶えず、死傷者を出し、ねぶた禁止令や取締規則が制定されたほどでした。



●子供用の手製の木馬



●橇 冬の遊びに欠かせない手作りの橇



●ベンジャ 下駄とスケートが一体になったような履き物

●ねぶた（日本武尊）



—この頃の主な出来事—

明治23年（1890）

- 2月 初めて流行性感冒、米国より入り全国的に流行。
- 5月 府県制・郡制各公布。
- 7月 第1回総選挙（青森県の人口は54万9,000人、うち有権者は4,973人）。
- 9月 津軽海峡函館・二本木間に日本人技術者の手で初めて海底電信線敷設。
- 10月 教育二関スル勅語発布。

明治24年（1891）

- 3月 度量衡法公布（基本単位は尺・貫）。
- 7月 東京音楽学校の卒業式で「君が代」が2回歌われ、先例となる。
北海汽船所有の瓊江丸、松前白神沖で衝突沈没。出稼人夫（青森県人）320人・乗組員11人のうち261人死亡。
- 9月 日本鉄道盛岡・青森間開通により、上野・青森間全通（のちの東北線。1日1往復、片道約26時間半）。

明治25年（1892）

- 5月 1月より関東で天然痘流行。青森県でも患者が多く1,151人、死亡303人。
 - 6月 小包郵便法公布（小包の郵送開始）。
- この年▶宮城県の日下内蔵、稲の新品種「愛国」を選抜。
国吉小林区署を田代小林区署と改称。

明治26年（1893）

- 7月 御木本幸吉、半円真珠貝の養殖成功。文部省、女子の就学促進のため小学校になるべく裁縫の教科を置くよう奨励（この年の女子就学率40.6%）。
 - 8月 文部省、学校の祝日大祭日儀式に用いる歌詞・楽譜を選定して公示（「君が代」など8編）。
 - 10月 秋田県知事、ヒメマス養殖事業申請の和井内貞行に8年間の十和田湖使用許可。
- この年▶山形県の阿部亀治、稲の新品種「新穂」を「冷立稲」から選抜（のち「亀の尾」と改称）。
盛岡で大日本農会主催、農産品評会開催され、相馬村からりんご出品。

相馬村では尋常小学校を卒業し、家業やカレゴ（年季奉公人）、モリコ（子守り）に従事するようになると幼さが残っていても一人前と見なされ、男子は青年団の一員になることができました。青年団は日露戦争後に各地で結成され、相馬村でも明治39年、相馬青年団が誕生しています。同世代が集まって貯蓄運動や夜学自習をし、時には村政から天下国家を論じ合ったりしていました。

中央では西欧化が進み風俗が変化したとはいえ、相馬村ではチョンマゲが丸坊主姿になったくらいで、服装も男女とも緋の着物姿が圧倒的でした。それでも洋式文化は少しずつ浸透し、明治末から流行したパラソルはとてもおしゃれで、女性たちの憧れでもありました。



●相馬村の名士たち



●晴れ着の「ぼど」を着た農家の娘たち



●家族で記念写真



●兵士と娘



●書籍（左から明治39年・明治32年・明治26年発行）

この頃の主な出来事

明治27年（1894）

- 1月 文部省、就学者の増加をはかるため小学校の2部授業を奨励、貧困児童のため夜学・日曜学校等を勧奨。
- 5月 青森県庁と青森電信局間に電話開通。
- 7月 日清開戦機運高まり、軍の買上げで梅干・漬物類・佃煮の価格騰貴。
- 8月 清国に宣戦布告（日清戦争）。北里柴三郎、ペスト菌を発見。

この年▶大形の丸髷、漬し島田流行。

明治28年（1895）

- 2月 青森地方に30年来の大雪（一夜に150cm）。
- 4月 日清講和条約調印。

この年▶戦後の好景気で呉服屋など大繁昌。北海道の江頭庄三郎、稲の新品種「坊主」を「赤毛」から選抜。

明治29年（1896）

- 3月 害虫駆除予防法公布（耕作者に駆除予防を強制）。
- 4月 雑誌「少国民」に「スキ駆け」と題しノルウェー式スキーの紹介記事掲載。
- 6月 午後8時半、三陸地方に大津波。青森県の死者345人。
- 11月 収税署を税務署と改称、全国504で開署。

明治30年（1897）

- 3月 青森県に電灯初点灯、青森電灯会社開業。貨幣法公布（金本位制の成立）。
- 4月 伝染病予防法公布（国内防疫制度完成）。
- 12月 文部省、小学校と師範学校においてなるべく男女別学にすること、高等女学校の設置推進を訓令。

明治31年（1898）

- 1月 葉煙草専売法施行。
- 2月 日本鉄道会社の機関手ら、尻内駅でストライキ（鉄道ストの初め）。
- 4月 青森市制施行。
- 6月 警視庁、警察官の人民に対する用語標準を通達（車夫馬丁等には「お前」「おいおい」、それ以上には「あなた」）。

農村では何よりも助け合いの精神が非常に大切にされていました。当時、農作業は個人の力ではまかないきれず、親類や近隣、友人たちの助けがなければできなかったからです。生活をするうえでもクミッコ（労力を交換する）、頼母子（お金や物品を融通する）屋根葺き、味噌搗き（味噌造り作業）など相互扶助の制度がありました。助けられた家では参加者に酒や、大皿に盛りつけた肴などを用意して謝礼をしました。

普段も隣近所とのつきあいを大切にし、菓子や果物を破籠に入れておすそわけをしたりしました。もらった側でも空で返さず、山菜や小豆などを入れてお返しにしたものです。



●飯櫃 飯を入れておくもの



●糸車 糸をより合わせる道具



●男うす・杵 女うすという胴がくびれた形のものもある



●ござん 白糸で刺してから、さらにで染めたもの



●嫁入箱 嫁入道具を入れたもの



●かぎのはな 鉄瓶をかけるもの。これは客室用



●水桶 家族用の飲用沢水をくむ

この頃の主な出来事

明治32年（1899）

- 3月 耕地整理法公布。
- 国有林野法公布。
- 4月 肥料取締法公布。
- 6月 農会法公布（農商務大臣が補助金を農会に交付しうることを定める）。
- 12月 通信省、年賀郵便特別取扱制（元旦配達、指定局でのみ受付）実施決定。
- この年▶赤痢流行、全国の死者2万3,769人。八戸地方でも流行、死者340人。
- 中津軽郡10ヶ村組合立の玉成高等小学校開校。

明治33年（1900）

- 1月 東京市、ペスト予防のために鼠の買上げを実施（1匹5銭）。
- 3月 未成年者喫煙禁止法公布。
- 治安警察法公布。
- 4月 内務省、牛乳営業取締規則公布（容器が硝子瓶となる）。
- 6月 シンガーミシン、初めて米国から輸入される。
- 8月 内務省、明治1年以来禁止の菊花紋章の民間使用を重ねて禁止（出版物商品・広告など）。
- この年▶湯口・目屋小林区署が開設。

明治34年（1901）

- 3月 中学唱歌（「箱根八里」「荒城の月」ほか38曲）刊行。
- 4月 大分県、米穀検査規則を定める（道府県営の検査事業の初め）。
- 12月 青森県尻屋崎燈台（通信省所管）、石油機関発電により電燈点火。
- この年▶相馬郵便局、五所に開局。

明治35年（1902）

- 1月 弘前歩兵第5連隊第2大隊、八甲田山麓で遭難。210人中197人凍死。
- 6月 万国郵便連合25周年記念絵はがき発行される（官製色刷絵はがきの初め）。
- この年▶宮田製作所、新型アサヒ号自転車を発売（この頃より自転車普及）。
- 東北地方凶作（青森県では南・中・西各郡7分作、下北郡皆無作）。
- 小学校への就学率、初めて90%を上まわる（通学率は68.4%）。

明治4年の廃藩置県は津軽の中心だった弘前を一変させることになりました。行政の中心が青森へ移り、旧藩主に代わって中央から派遣された県知事が行政機構を改革、士族は失業してしまいました。こんな中で明治22年、弘前は青森県で最初に市制を施行したのです。無禄になった士族は次第に家屋敷を手離すようになり、武家の町並みは崩れていきました。旧城下町を再び活気づけたのは明治27年の青森・弘前間の鉄道開通と、明治30年の第8師団司令部開設でした。弘前駅のまわりには旅館や倉庫が建ち、駅前地区が拓けていったのです。また、師団の開設でかつての士族屋敷は軍人の住宅となり、空地には貸家や兵舎が建設され、道路も整備されていきました。

●日露戦争後の凱旋門（弘前市）



—この頃の主な出来事—

明治36年（1903）

- 4月 弘前公園で桜1,000本植樹、内山寛弥の寄付による。
小学校令を一部改正、小学校教科書は原則として文部省が著作権を有するものに限る（国家教科書制度成立）。
 - 9月 祇園の芸妓加藤ゆき、米人富豪モルガンに10万円で落籍され話題に。
 - 10月 津軽海峡で青森・室蘭定期船東海丸、露船と衝突し沈没、150人余溺死。
- この年▶台湾バナナ、初めて入荷。

明治37年（1904）

- 2月 ロシアに宣戦布告（日露戦争）。
 - 4月 煙草専売法公布。
- この年▶出征軍人の武運を祈る千人針の風習始まる。婦人矯風会などにより慰問袋の製作も始まる。

明治38年（1905）

- 3月 陸軍、脚気増加に対処し、米麦7：3の混食奨励を訓令。
 - 6月 塩専売法施行。
 - 9月 日露講和条約。
奥羽線横手・湯沢間開業により、福島・青森間全通。
- この年▶東北地方大凶作。

明治39年（1906）

- 3月 鉄道国有法公布。
東北地方大飢饉。
- 4月 青森特別輸出港が開港。
- 7月 青森・函館間の電話開通。
雪中行軍遭難記念銅像除幕式。

明治40年（1907）

- 1月 東京株式相場暴落（日露戦争後の恐慌の端緒）。
 - 3月 小学校令を改正、尋常小学校義務教育年限を6年に延長、高等小学校を2年もしくは3年制とする。
 - 4月 農商務省、各府県に窮民対策として農家の養鶏奨励。
 - 6月 桃中軒雲右衛門、本郷座で口演、1ヶ月満員（浪花節の人気急上昇）。
- この年▶富山県の石黒岩次郎、稲の新品種「銀坊主」を「愛国」から選抜。



●土手町蓬来橋通り（弘前市）



●弘前地方裁判所（弘前市）



●第8連隊記念祭（弘前市）



●第8連隊記念祭（弘前市）

●中部農産品評會のぞき

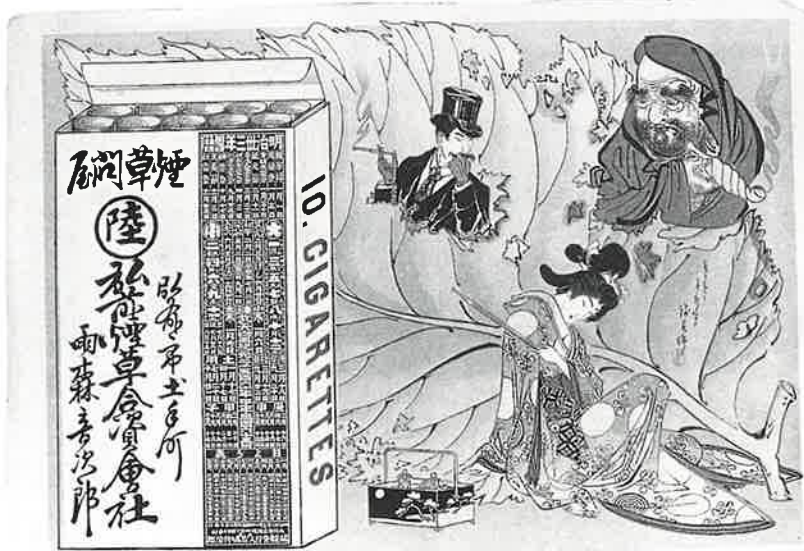
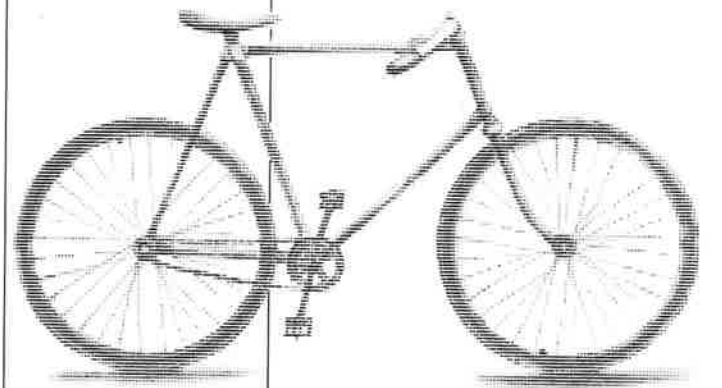
晩秋の候豊年萬作を鑑ふ今日此頃中津輕郡農會にて同郡玉成高等小學校内に農産物品評會を開催せり第一日(十月廿五日)は午後一時より縦覧を許せる次第なれば先づ縦覧の大体を紹介す

○第一號室(蔬菜) 蔬菜の特別室たる大菜、和洋種西瓜、古芋、馬鈴薯、大根、蕪類、甘藍、少數の玉葱等を以て滿され壁間上部の東北兩方は株豆、西方は株栗を吊下せらる同室は郡内主要の産物を陳列せることゝて稍々活氣を呈し就中甘藍、馬鈴薯の出陳著しく昨年より増加したるのみならず馬鈴薯の進歩顯著あるは欣ぶべきあり○第二號室(穀類、生糸) 室内中央には筒子入の米、四圍は箱入の大小豆と蕎麥、生糸、真綿を以て充され小暗き一隅に片栗の一箱を盤居せしめつゝあるを見る壁上一凡て秣稻を以て飾られたるか米大豆類及蕎麥の出品中頗る逸品あるもの、如し○第三號室(果實) 同室は同郡の一大主要特産物たる苹果室あれば香氣が外に溢れ出陳せられたる紅紫朱黄珠を欺き光澤目を眩せん許りあり之ぞ室内の花郡内米に次けるの産類なりと左もあるべし上壁に株稻、株栗、枝豆の吊下せるもの殺菰室の殘部とも見受けらる○第四號室(果實) 第三號室

●明治43年農産物品評會

●新聞広告

大正 一九一三年〜一九二六年



●各博覽會 共進會 賜名譽牌●

國產會本製菓 通商附屬品
金剛毛織 軍艦川毛織類
竹器工製 漆器工各様

所産會品會製作品
木通葛細工 手販賣
其他國產雜貨賣賣

社會資合産物方地

(4) 略電・戸番二廿町三和市前弘

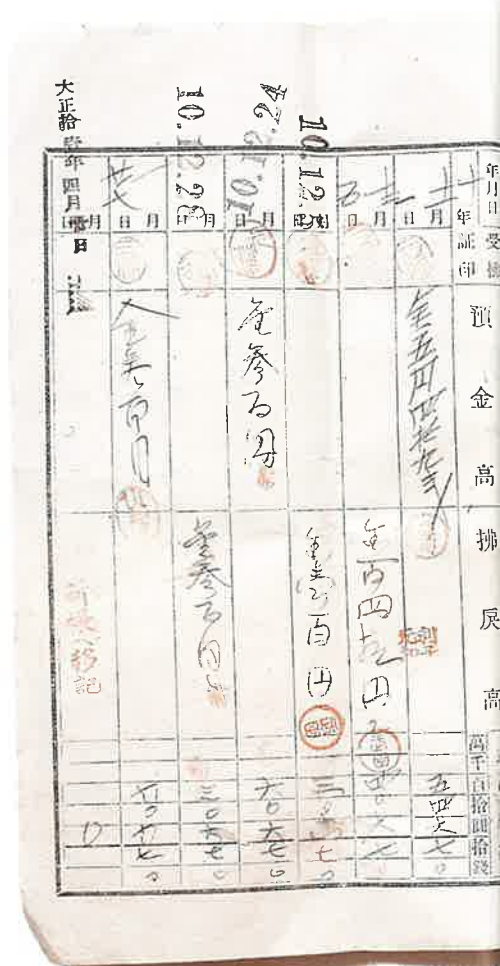


大正時代の相馬村は米作りと炭焼きで支えられていました。けれども村のほとんどは小作人で苦しい生活をしいられ、大正2年の大凶作では大打撃を受けてしまいました。こうした状況でも相馬村農会はたびたび稲作技術の講習会や立毛（農産物）品評会を開催し、生産力の増大を目指して活動しました。

大正3年から起きた第1次世界大戦は日本を軍需品の生産基地にし、大戦景気をもたらしました。青森県が大凶作の痛手をいやし、好況に転じたのは大正6年頃のこと。米や木炭などの価格が高騰して農家の収入が増え、預貯金も活発になっていきました。しかし、好景気は反動が大きく、間もなく大恐慌へと向かっていったのです。



●大正時代の貨幣



●大正時代の第五十九銀行（現青森銀行）の預金通帳



●農産物品評会で受賞した賞状（大正元年）



●農産物品評会受賞記念の銀盃



●農産物品評会受賞記念の勲章

—この頃の主な出来事—

大正2年（1913）

- 1月 文部省、「学校体操教授要目」を制定（兵式体操を教練と改称）。
- 2月 トンボ鉛筆発売。
- 5月 クラブ化粧品の中山太陽堂、初の飛行機広告を行う。
- 6月 森永製菓、ミルクキャラメル発売。
- この年 ▶ 東北・北海道地方大凶作（青森・北海道は米穀収量平年の10～20%、要救済人口 937万人）。
- 前髪を七三にわけた女優まげ流行。

大正3年（1914）

- 2月 日本移民協会設立
- 3月 東京大正博覧会、上野公園で始まり青森県出品の馬が全部入賞する。辰野金吾ら設計の東京駅完成。
- 7月 第1次世界大戦はじまる。
- 8月 ドイツに宣戦布告。
- 9月 生糸相場暴落。
- 10月 新築開店の三越呉服店に来客多数、日本最初のエスカレーター、入口の青銅ライオン像評判となる。

この年 ▶ この頃、大正琴流行。

相馬村で木炭改良のため檜炭・雑木炭の区分の規約などを作る。

大正4年（1915）

- 6月 内務省、看護婦規則公布（看護婦の資格を規定）。陸軍大演習で所沢の飛行機が青森市に飛来（青森県初の飛行機）。
- 7月 南洋群島の酋長ら22人、石貨などを土産に来日、話題をよぶ。
- 9月 「婦人之友」、家庭用仕事着を考案発表（割烹着の普及始まる）。
- 10月 大正天皇、特別陸軍大演習統監のため弘前市へご到着。

この年 ▶ 電気ゴテ使用の前髪ウェーブ流行。この頃より、カフェ女給の白エプロン姿始まる。

相馬村青年団創設。

西目屋村砂子瀬村駐在、森林主事・斉藤勝之氏遭難。
弘前市土手町蓬萊橋架替竣工式に湯口獅子舞参加。

りんごは高収益になるというので栽培に取り組む農家もふえていきましたが、結実するまでには莫大な労力と、数年間の投資が必要で、財力が無ければ難しい事業だったようです。

りんご栽培の課題は病虫害の克服で、大正7年には県下のりんご生産者が農商務大臣に赤星病絶滅の陳情書を提出しています。対策として袋掛け、農薬の散布、せん定方法の改良などを行なっていましたが、当時は防除機も不備で薬剤散布の回数も少なく、噴霧機はほとんど手押型のものだけでした。こんな中で大正15年、農林省は米国から石油発動式大型噴霧機を購入、実地試験地として青森県を選び、りんご関係者を大いに喜ばせました。



● 粗とおし 粗と、ゴミや薬をより分ける道具



● 薬打ち槌 薬を打って柔らかくするための道具



● しび抜き 薬から薬屑を取り除く櫛の働きをする。薬屑は布団に入れたりした

● 箕 穀物をふるって、からやゴミをふり分ける



● 車輪付噴霧機 手押型薬剤散布機



● 手管 田の除草をするとき、指にはめて保護するもの



● しよいこ 荷を背負うときの運搬具



● 木材関係の作業員

青森県の就学率は大正5年には97%を越えていましたが、全国46府県のうちでは36位と振るいませんでした。県内では弘前地区が99.6%と最も高く、この地区が教育に高い関心をもっていたことがわかります。

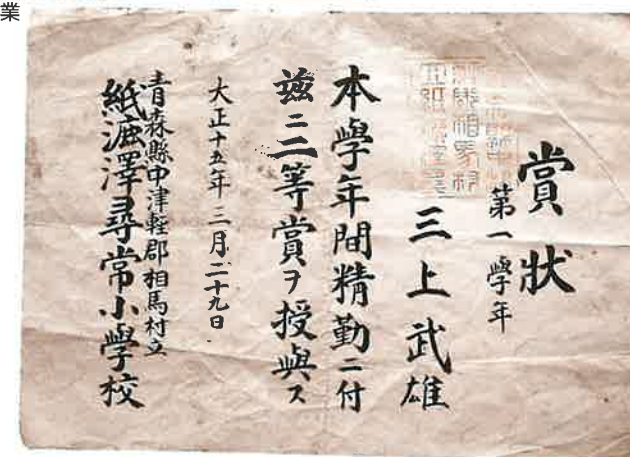
相馬村では明治43年に開設された冬期間だけの沢田分教場が大正9年、教習所となり、平屋建ての校舎が建設されました。この建設費用は全て沢田部落の住民が負担したもので、この地域の人々の教育に寄せる熱意がうかがわれます。大正期からは石堂、紙漉、相馬の3小学校が合同で浅虫や函館方面へ修学旅行を行なうようになりましたが、これは子供たちにとって最も楽しい学校行事でした。



●左：くつろぐ男子学生 上：袴姿の女学生



●紙漉沢尋常小学校の卒業写真（大正2年）



●休まずに登校した人に与えられる手書きの精勤賞（大正15年）



●相馬尋常小学校の通信簿。成績が甲・乙・丙で評価されている（大正11年）

—この頃の主な出来事—

大正5年（1916）

- 6月 友愛会婦人部設置（最初の労働組合婦人部）。
- 11月 東北本線下田・古間木間で臨時列車と貨物列車が正面衝突、入営兵士36人死亡、重軽傷 133人。
- 12月 ドイツの講和提議により、株式相場大暴落、東京・大阪の株式取引所立会停止。

この年▶チャップリンの喜劇映画、続々上映され人気を集める。

大正6年（1917）

- 4月 東京市内で、電話で「火事」といえば消防署へ接続する制度始まる。
- 7月 警視庁、活動写真興行取締規則公布。フィルム検閲、男女客席の分離、説明者の免許制など決まる。
- 9月 農商務省、暴利取締令公布（米穀・鉄・石炭・綿糸布・紙・染料・薬品類の買占め・売惜みを戒告・処罰）。大蔵省、金貨幣・金地金輸出入取締令を公布（事実上の金本位制停止）。東京を中心に東日本に大暴風雨、死者・行方不明1,300人、倒壊・流失4万3,000戸。青森地方も大烈風。

この年▶「目玉の松ちゃん」こと尾上松之助主演のトリック映画、小学生・大衆に大人気。

大正7年（1918）

- 1月 警視庁、交通事故増加で初めて「赤バイ」交通専務巡查 100人を配置。
- 4月 文部・内務両省、地方農村の乙女会処女会などの連絡機関として処女会中央部設立（大日本女子連合青年団の初め）。警視庁、初めて女性（渡辺はま子）に自動車運転免許を交付。
- 5月 弘前市で第1回観桜会。
- 7月 米価暴騰、青森県では石当り30円2銭を記録。
- 8月 政府、シベリア出兵を宣言。富山県で、米騒動、全国に波及。
- 11月 春から全国で大流行のスペイン風邪、青森県では2,600人死亡。第1次世界大戦おわる。

岩木山は農耕生活と結びついた信仰の山で、春の山の雪形は農作業を始める目印にもなっていました。この神の山に参拝するお山参詣は江戸時代に始まった民間信仰行事で、岩木山に登拝し、五穀豊饒と家内繁栄を祈願する農家にとって大切な催しです。

相馬村でも朔日山をかけるために参加者は旧暦8月1日の1週間前からお宮にこもり、生ものを食べず、夕食後に相馬川で笛、太鼓の拍子でサイギサイギを唱えながら水垢離をして身を清め、参拝に備えました。人々は白装束で身じたくをし、御幣や幟をつらね、登山囃子を演奏しながら岩木山へと向かいました。行列は藩政時代から弘前を経由する習慣があり、沿道は見物人でにぎわいました。



●ひょうたん 酒を入れて腰につるした



●酒樽 お山参詣のとき御神酒を入れた



●かんむり 大正頃まで、山かけをして下山したとき頭にかぶった

●面 無事に参拝を済ませ、下山してから「いい山かけた」と面をつけて踊った



この頃の主な出来事

大正8年（1919）

- 3月 結核予防法・トラホーム予防法・精神病院法それぞれ公布。
相馬村山田に大火、21戸を焼失。
- 4月 都市計画法公布。
- 6月 皇太子裕仁親王・久邇宮良子女王の婚約成立。
- 10月 青森・東京間に長距離電話開通。

大正9年（1920）

- 3月 株式市場、株価暴落で混乱（戦後恐慌始まる）。
- 4月 栃木伊藤銀行支払停止。取付で支払停止する地方銀行続出。
- 5月 日本初のメーデー、上野公園で開催。参加者1万人余。
- 6月 初の「時の記念日」。
- 11月 ムシ歯デー、初めて実施。

大正10年（1921）

- 4月 市制・町村制改正公布（直接市税・直接町民税を納める者を公民とし、町村の等級選挙を廃し、市を2級選挙とする）。
- 度量衡法改正公布（メートル法を基本とする）。
- 10月 天皇病状悪化の発表で株式・綿糸・米穀相場下落。
- 11月 東京駅頭で原敬首相、中岡良一に刺殺される。

この年▶「船頭小唄」（枯れすすき）流行。寺尾博、水稻の耐寒品種（陸羽 132号）を交配、育成。

大正時代は服装も髪型も和洋折衷でした。日本髪よりも束髪がふえ、女学生は袴に編み上げ靴をはくのがおしゃれでした。男性の間では帽子をかぶるのがはやり、商人や普通の人たちは烏打帽子を、紳士は中折帽子を愛用しました。洋傘もおしゃれに欠かせない小道具で、マフラーもなかなか人気があったようです。写真を撮影するときにこれらを身につけ、カメラの前で精一杯ポーズを取ったものでした。村の子供たちは普段は緋の筒袖の着物に三尺帯をしめ、親が作ってくれた藁草履をはいていました。小さいうちは着物の丈が膝までですが、年が増すにつれて長くなりました。天長節や紀元節、卒業式といった特別の日には子供も袴をはいて登校するのが一般的でした。



●和洋折衷がモダンな若者たち



●夏の一日をくつろぐ婦人と子供たち



●毛糸のマフラーは当時のおしゃれ



●職業婦人の代表格、看護婦さん



●この頃の書籍・印刷物より
左上：神道水滸傳
右上：長編講談「大高坂喜平治」
右：明治天皇御大葬記念の写真集「実業之日本」(大正元年)

国産のミシンが出回るようになったのは大正になってからですが、明治33年にはすでに米国製のシンガーミシンが輸入されています。家庭用として一般に普及するようになったのは大正から昭和にかけてのこと。洋式文化が浸透し、着物から洋服へ変化していく時代に合わせ、嫁入り道具の1つにもなっていました。英語でソーイング・マシーンというように、ミシンは初め「裁縫機械」と表現されていました。高価で、家庭でおいそれと手が出る値段ではなく、シンガーでは明治40年から月賦販売を行なっています。大正末の頃は現金払いで1台40円、月賦なら月々3円ずつの17ヶ月払いで51円という価格でした。



●ミシン 女性たちのあこがれの道具だった



●木鉢 団子をこねたりするときに使う道具



●えんつこ 赤子をいれる育児用具



●かんじき 雪に足を踏みこまないよう靴の下にはくもの



●祝儀用の大椀と御膳 汁物や煮物を入れて座敷におき、客に配った

この頃の主な出来事

大正11年 (1922)

- 1月 銀座の資生堂、美容・美髪・洋装の3科を設置（美顔術実施、カプト型ドライヤー設置、パリモード紹介）。
- 3月 上野・青森間、奥羽線経由で初の急行列車。
- 7月 ライト設計の帝国ホテル完成。
- 9月 文部省、女教員・保姆に初めて産前産後給休養を認めるよう訓令。
- 10月 青森県産リンゴ252万8,541箱の大豊作。
- 11月 アインシュタイン来日、相対性理論ブーム起る。

この年▶ 岩田式（遠心力式）糊摺機、普及しはじめる。
子供服普及、子供洋服店増加。
この頃童話雑誌の創刊が盛ん。
オールバック流行。

大正12年 (1923)

- 1月 雑誌「婦人倶楽部」、初めて付録を単行本形式とし、別冊付録と称す。
弘前市にかくはデパート開店。
- 9月 関東大地震おこる。流言とび人心動揺。

この年▶ ブリヂストンの地下足袋発売。
この頃、耳かくしスタイル流行。

大正13年 (1924)

- 1月 摂政裕仁親王、久邇宮良子女王と結婚式を挙行。
- 5月 青森県八戸町に大火、1,356戸焼失3人焼死。
青函航路に貨物・翔鳳丸が初就航。
- 8月 甲子園野球場竣工、全国中等学校野球大会開会。
- 9月 車力村で小作組合結成、津軽地方農民運動の引き金となる。

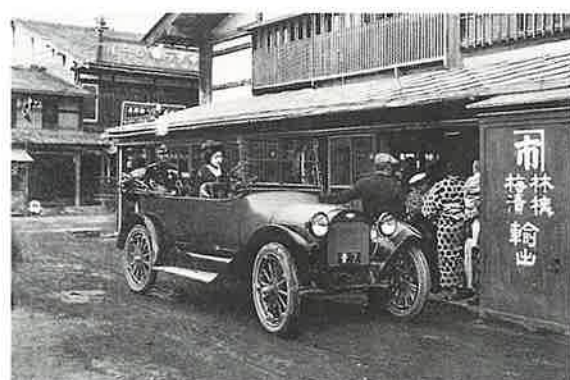
この年▶ 洋服の実用化がすすみ、夏は簡単服（アップパ）が流行し始める。
この頃より水稻第2次統一品種（旭・銀坊主・陸羽132号）の普及はじまり
1930年頃に第1次統一品種と交替。
相馬村紙漉沢水力発電所竣工。

弘前市は第8師団の設置で活気づくようになり、師団側も積極的に市民との交流に努めたこともあって、親しみを深めていきました。大正4年には第2・第7・第8各師団参加の陸軍大演習が弘前を中心に行われることになりました。これには大正天皇も臨席されとあって急きょ公共施設や環境が整えられることになり、天皇が乗った鳳輦が通る土手町の蓬萊橋も掛け替えられたのです。竣工式には相馬村から湯口獅子舞が参加し、橋のはらいを行ないました。演習は弘前市民だけでなく周辺地域の人々にとっても大変な出来事で、巨大な戦車が実際に動く様子や、軍用機が飛行する姿に目を見はり、わざわざ見物に繰り出す人も多かったのです。

36



●大正期の下土手町(弘前市)



●町を行く自動車(弘前市)



●輜重兵第8大隊(弘前市)



●弘前市上空を飛ぶ軍用機(弘前市)



●大正12年の国呉服店(弘前市)

—この頃の主な出来事—

大正14年(1925)

- 4月 青森・樺太定期航路開設。
治安維持法公布。
- 5月 衆議院議員選挙法改正公布(男子普通選挙実現)。
- 10月 第2回国勢調査実施(内地人口5,917万9,200人)。

この年▶セーラー服が流行する。

大正15年(1926) 昭和1年

- 1月 東京京橋電話局で、最初のダイヤル式自動電話制実施。
- 4月 小学校令改正公布(日本歴史を国史と改める)。
青森・函館間電話開通、初めて本土と北海道の電話連絡成る。
- 5月 農林省、自作農創設維持補助規則を公布(地方団体による自作農創設維持政策を補助)。
- 10月 青森県六ヶ所村の村会議員選挙、初の普通選挙により執行。
長慶天皇の御在位を勅命で認定。
- 12月 天皇没、昭和と改元。

この年▶モガ(モダンガール)の断髪流行、ハンドバッグが普及する。

37

◇二十戸を焼失す

●相馬村山田で大火(大正8年)

十一日の佳辰を卜し開店祝賀會を開く
大東京の真中に

●東京にりんご紹介所(大正12年)

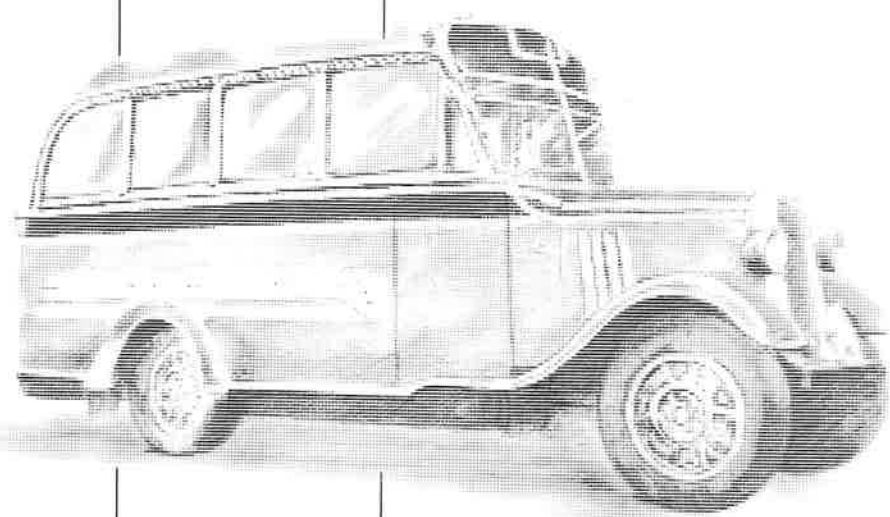
第一日

●にぎわう弘前観桜会(大正12年)

西口集村にては部落有村

●相馬村の林野を統一(大正12年)

●演習召集人員(大正6年)



昭和 戦前・戦中の相馬村のようす

日華事変、大東亜戦争、第2次世界大戦と、戦争の拡大は食糧需要を増やし、一方で生活資材はもちろん、肥料や農薬、農具など生産資材の減少をもたらしました。村では働き盛りの青年が兵役や軍需工場に動員されたため農業労働力が減り、残った中老年者や戦地へ夫を送り出した婦人に重労働がのしかかり、農業生産力が急速におとろえ始めました。こんな中で昭和18年、相馬村は標準農村の指定を受けたのです。これは総合的農村の建設と満州への分村を目標に、一定基準で政府が助成するもので、県下では5村が初めて指定を受けました。同じ年、村農会と産業組合が統合して農業協同組合の前身、相馬村農業会が発足しました。



●相馬村役場落成式（昭和初期）



●上：相馬村警防団第一分団（昭和10年頃）
右：郵便配達人（昭和初期）



●紀元2600年記念植樹（昭和15年）



●日本曹達株式会社所有の舟打鉱山（昭和10年代）



●左・中：昭和初期に発行された貨幣 ●右：戦時中に発行された国債



相馬村では昭和7～8年頃から村有地の秣場が払い下げられるようになったため急速に開墾が進み、りんご畑として利用されていきました。大正末期からは農産物の立毛品評会に苹果(りんご)の審査部門ができ、栽培農家はここに自信作を出品するとともに、互いに技術の研鑽を積み重ねていったのです。

しかし、これも昭和13年頃までで、戦争が激しくなってくると食糧生産が奨励され、りんごの樹を伐採して米や大豆、馬鈴薯などを植えさせられるようになりました。りんご栽培への風あたりは強く、肥料や農薬の確保も非常に難しくなり、弘前市では田植え前にりんごの袋掛けを行なった農民が検挙される事件も起きたほどでした。



●りんご園で働く地主と娘たち(昭和16年)



●りんご摺り板
などを摺る銅板
りんご箱に屋号



●灌注竿 薬剤散布用の竿。これに手押型噴霧機を取りつけた



この頃の主な出来事

昭和2年(1927)

- 3月 東京渡辺銀行・あかぎ貯蓄銀行休業。京浜地方に銀行取付おこり金融恐慌はじまる。
農林省、養鶏奨励規則を公布。
- 4月 全国150万人の処女会を統一して大日本連合女子青年団創立。
- 9月 青森県議選、初の普通選挙により執行。
- 11月 初の明治節。明治神宮参拝者、昼50万人、夜30万人。

この年▶白ぐみの赤ちゃん服が流行。

昭和3年(1928)

- 1月 相撲放送開始。
- 2月 第16回総選挙(最初の普通選挙)。
- 3月 上野公園で開催の御大礼記念博覧会に高島屋呉服店、初めてマネキンガールを使用、人気を集める。
- 7月 第9回オリンピック・アムステルダム大会開催。3段跳で織田幹雄、200m平泳で鶴田義行が初の金メダル。
- 11月 『ラジオ体操』放送開始。
天皇、即位礼を挙行。

昭和4年(1929)

- 2月 車力村小作争議激化。争議団幹部逮捕され、警官と乱闘。県の調停で小作側勝利。
- 3月 大学卒業者の就職難深刻化、東大卒の就職率約30%。
- 5月 小作調停法を宮城・岩手・青森3県に施行する旨公布。
- 6月 農林省、役馬奨励規則を公布。
- 10月 農林省、造林奨励規則を公布。
ニューヨーク株式市場大暴落、世界恐慌はじまる。

この年▶ゴムロール式摺摺機、普及しはじめる。

狐まがいの兎の襟巻きが婦人に人気。
日本曹達株式会社が舟打鉱山の権利を獲得。

相馬村のほとんどの農家は自小作で、小作地と自作地の割合は4対6ぐらいでした。昭和2年の水田面積は326町歩で、770人の農家が平均4反歩の経営をしており、これからすると100町歩ぐらいは小作地となり、この状態は戦後の農地改革まで続きました。総面積の8割を山林が占める相馬村では林業も盛んで、炭焼きは古来から産業として行なわれ、白炭の産地として知られていました。特に昭和17~18年頃、バスやトラックに木炭ガスが使用されるようになると木炭の需要は大幅に伸び、村の副業の代表格になりました。この時代、これ以外に村民が現金を得る道といえば、営林署の雇用人夫か、出稼ぎに出るしか方法がありませんでした。



●除草機 稲の株の間の草を除き、田の土をやわらかくする

44



●かりとほし 脱穀した稲から風でゴミを除く



●大鋸 杉夫が木を切り倒すときに使う



●ねこ 藁縄を編んで作った炭焼き用の大型の籠



●四つ櫓 滑る部分に隆起が4つあり、平地の木材運搬に用いる



●唐箕 穀物から秕や籾などを吹き分ける道具



●足踏脱穀機 千刈は、扱きよりずっと能率的な脱穀機

—この頃の主な出来事—

昭和5年(1930)

- 1月 第1回全日本スケート選手権大会、八戸で開催。
 - 5月 男装の麗人水の江滝子(ターキー)、初めてショートカットで出演。
 - 8月 閣議、農漁村救済のため7,000万円の融資を決定。全国町村長会臨時総会、農村救済宣言を議決し政府に陳情。
- この年▶世界恐慌、日本に波及(昭和恐慌)、1932年頃まで続く。この年以後、苛性ソーダ生産高が輸入高を凌駕。ロングスカート流行し始める。

昭和6年(1931)

- 4月 青森県りんご試験場開場。
- 9月 満州事変はじまる。第1報、初の臨時ニュースで放送。
- 10月 三沢の林代海岸からミス・ビードル号太平洋横断飛行へ出発、翌日米国シアトルに着陸。

この年▶不況さらに激化、特に東北・北海道地方の冷害凶作で農村不況深刻化。
石堂・紙漉沢の両尋常小学校を統合、五所に相馬第一尋常小学校を作る。

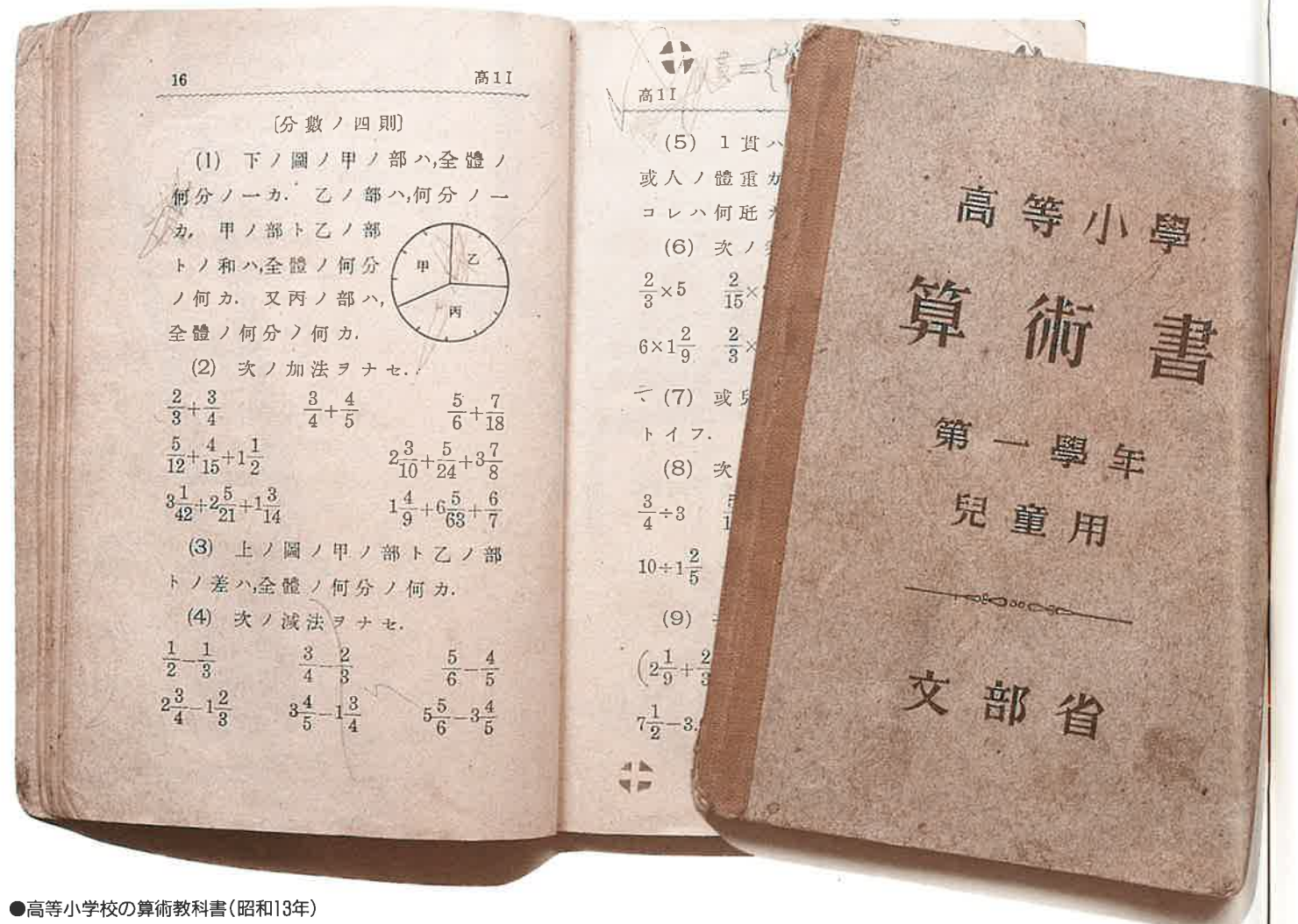
昭和7年(1932)

- 1月 上海で海軍陸戦隊、中国軍と交戦開始。上海事変おこる。
- 3月 満州国、建国宣言。
- 5月 海軍青年将校と陸軍士官学校生徒ら、首相官邸などを襲う。5.15事件おこる。
- 7月 文部省、農漁村の欠食児童20万人と発表。9月に臨時学校給食の訓令。第10回ロサンゼルスオリンピックで南部忠平・西田修平ら活躍、金メダル7個獲得。
- 12月 日本橋白木屋出火、初の高層建築火災で死者14人、重傷者21人。

この年▶小松製作所、キャタピラー2トン型をモデルとし農耕用トラクター完成。青森県下の身売り娘、1月から3月までで1,500人。

45

昭和4年、藍内地区の子供たちのために藍内分教場が建設されました。この頃から財政緊縮の波を受けて学校の統廃合が促進され、昭和6年には石堂と紙漣沢が合併して現在の五所運動広場に大規模校舎が建設されました。昭和8年には舟打鉾山が華々しく開山して就業人口も増えたため、舟打分教場の新校舎が建設されました。昭和18年、沢田分教場は沢田分校として通年制の分校に昇格しましたが、その喜びもつかの間、沢田に大火事が発生し、多くの民家とともに沢田分校々舎も焼失してしまいました。火元の民家は校舎が新築されるまでの約2年半、自家を校舎代わりに提供してその責任を取り、人々の称賛と感動を呼んだのでした。



●高等小學校の算術教科書(昭和13年)



●相馬第一国民学校の生徒たち



●相馬第一尋常小學校の通信簿(昭和15年)



●落成した舟打鉾山小學校(昭和16年)

—この頃の主な出来事—

昭和8年(1933)

- 3月 三陸地方に大地震、大津波。青森県三沢、百石海岸にも大被害、死者不明31人。
- 4月 陸軍飛行学校生徒教育令公布(少年航空兵制度始まる)。
- この年▶東京で「東京音頭」の盆踊りが熱狂的に流行、全国に波及。
米作大豊作、青森県産りんごモニリア病で大不作。
舟打鉾山の発展により、相馬村行政区に舟打を加える。

昭和9年(1934)

- 4月 青森・弘前・八戸の3電気会社を買収、青森県電気局営業開始。
- 8月 十和田湖へ初の国鉄バス開通。
- 11月 東北各県の生活綴方教師、北日本国語教育連盟を結成。
- 12月 職業野球団大日本東京野球倶楽部創立(沢村栄治・スタルヒン・水原茂など)。
- この年▶東北冷害・西日本旱害・関西風水害のため米作など大凶作。東北地方では身売り、欠食児童、行き倒れなど悲惨。
国産パーマメント機械第1号発売、一般家庭婦人にパーマメント普及。

昭和10年(1935)

- 1月 鐘紡兵庫工場、田舎の「もんべ」を改良した新型作業ズボンを考案使用。
- 2月 冷害東北の食糧難深刻化、岩手県石巻市の農民、政府米交付基準改正を要求し米貸せ運動開始。
- 12月 初の年賀郵便切手発行。
- この年▶洋服・自転車などの月賦販売が流行しはじめる。
平均寿命、男44.8歳・女46.5歳。

子供たちにとって木切れや小石も遊び道具で、たまに「店屋コ」から買う玉コ(ビー玉)、ビダ(面子)、ズグリ(こま)、イチョコ(おはじき)は宝物でした。こういった物で賭け勝負をし、勝ち取った玉コやビダを箱いっぱい持っていることは自慢でもあったのです。相馬村の年中行事で最大のものは「ねぶた」と「お山参詣」です。長引く戦争の中で昭和19年に久しぶりにねぶたが許可され、このときは農閑期に盆踊りや民謡なども健全娯楽として奨励されました。戦争が激化し、村民の生活も全て戦争と深く関わるようになってくると戦死者や負傷者が続出し、祭りどころではなくなり、伝統行事も全て縮小されるか、禁止されていったのです。

48

●ビダ 丸形の面子。その時代の人気者が絵柄になる



●子供用機



●弘前城公園の観桜会(昭和9年)



●お山参詣の人びと(昭和17年頃)

—この頃の主な出来事—

昭和11年(1936)

- 2月 十和田湖が国立公園に指定される。日本職業野球連盟結成(7チーム)。名古屋でプロ野球初の対抗試合。2.26事件おこる。
- 8月 第11回ベルリンオリンピックで前畑秀子、田島直人ら優勝。
- 9月 青森市で東北初の自動式電話開通。
- この年▶アルマイト製弁当箱全盛。女性マフラー、セーラー男児服流行。**中津軽郡木炭生産組合を結成、理事長に成田栄吉(西目屋)就任。**

昭和12年(1937)

- 2月 兵役法施行令改正で徴兵検査合格基準緩和、学生の兵役逃避を封鎖。文化勲章令公布施行(長岡半太郎・本多光太郎らが第1回受賞)。
- 6月 献金つき愛国切手・葉書発売。盲・聾・啞3重苦のヘレン=ケラー女史、青森・弘前で講演。
- 7月 蘆溝橋で日中両軍衝突、日中戦争の始まり。
- 8月 速達郵便制、全国に拡大実施。
- 12月 第15回全日本スキー18キロで弘中の山田肆郎優勝。
- この年▶全国各地で千人針、慰問袋さかん。

昭和13年(1938)

- 1月 新劇女優岡田嘉子、杉本良吉と樺太国境をこえてソ連に亡命。
- 4月 国家総動員法公布。国民健康保険法公布。燈火管制規則実施。
- 7月 文部省編「東北読本」上(東北地方の小学校高等科、青年学校生徒に東北対策の一環として無料配布)。東京の青バス、木炭車に改造開始。弘前警察署、時局理由でねぶたを禁止(18年復活、その後再禁止)。
- この年▶代用品(陶製鍋・鮫皮靴・鮭皮ハンドバッグ・木製バケツなど)発売。和服に矢絛流行、若い女性に自粛髪型ロール巻流行。**相馬第二尋常小学校舟打鉦山分教場発足。**

49

戦争が続き、思想統制が行われる中で、村民の楽しみといえば年に数回ほど巡回してくる映画か人形芝居くらいでした。昭和13年、県下初のラジオ局としてNHK弘前放送局が開局し、村にも数台ラジオが入ってきて話題となったことは言うまでもありません。

この頃の食生活はほとんどが自給自足で、納豆や豆腐、味噌などは全て自家生産の大豆を加工して作っていました。春から秋にかけて採取した山菜やキノコは塩漬けにして樽に詰め、保存食として貯蔵しました。肉を購入することはほとんど無く、魚にしても塩ものか乾物に加工されたもので、刺身など生魚が食膳に上るのは正月や結婚式といった特別の日に限られていたのです。



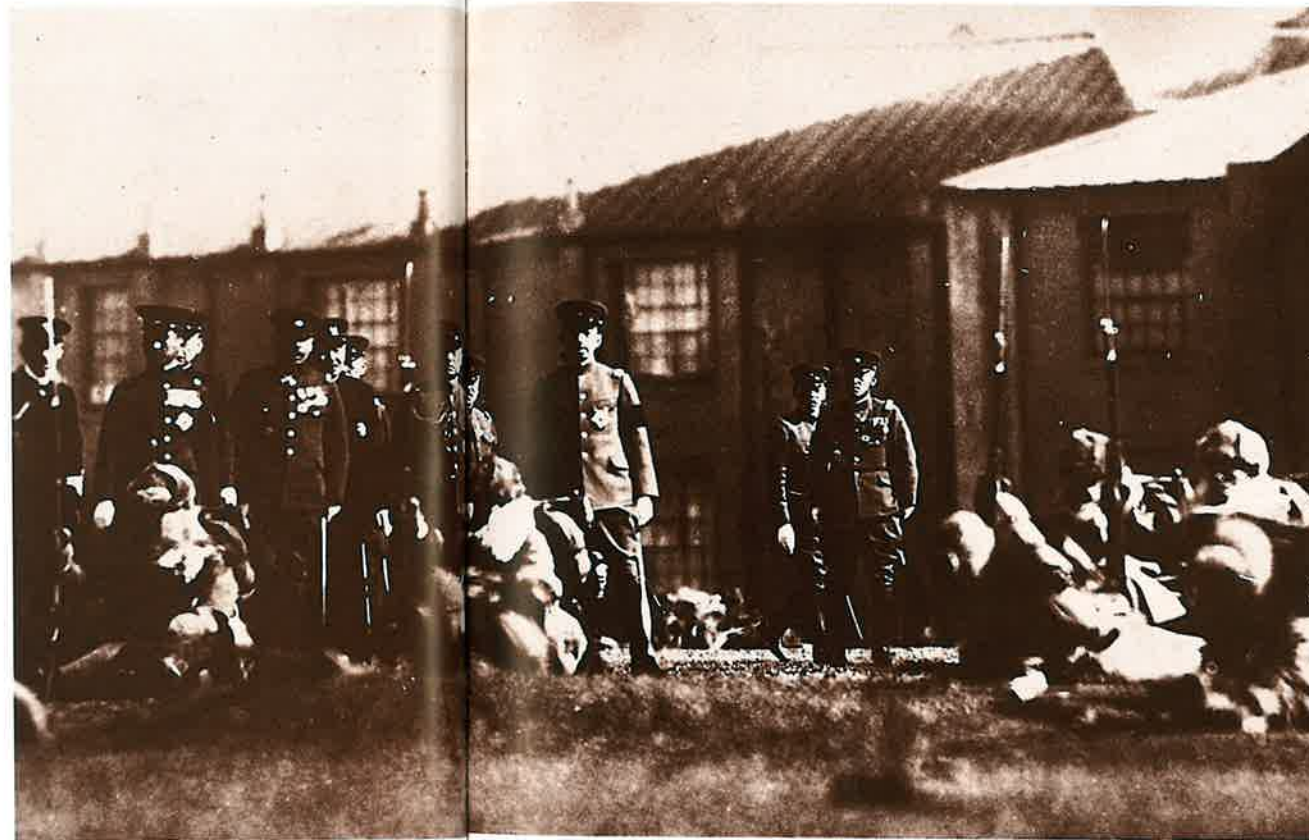
●農家の人びと



●弘南バスの運転手



●国防婦人会



●非常時に備えて



●出征する兵士たち



●軍隊手帳

—この頃の主な出来事—

昭和14年（1939）

- 1月 五場所全勝の横綱双葉山、安芸海に敗れる。
内務省、1市町村に1基の忠霊塔建設許可。
警防団令公布。
- 2月 商工省、鉄製不急品の回収開始。
- 3月 文部省、大学でも軍事教練を必修とする。
- 4月 愛馬の日（4月7日）「愛馬進軍歌」流行。
青年学校を義務制とする（満12歳以上、19歳以下の男子）。
- 6月 満蒙開拓青少年義勇軍2,500人の壮行会挙行。
- 7月 政府、金の国勢調査実施。
国民徴用令公布。
- 9月 ドイツ陸・空軍、ポーランド進撃を開始。第2次世界大戦始まる。
- 10月 物価統制令実施。

昭和15年（1940）

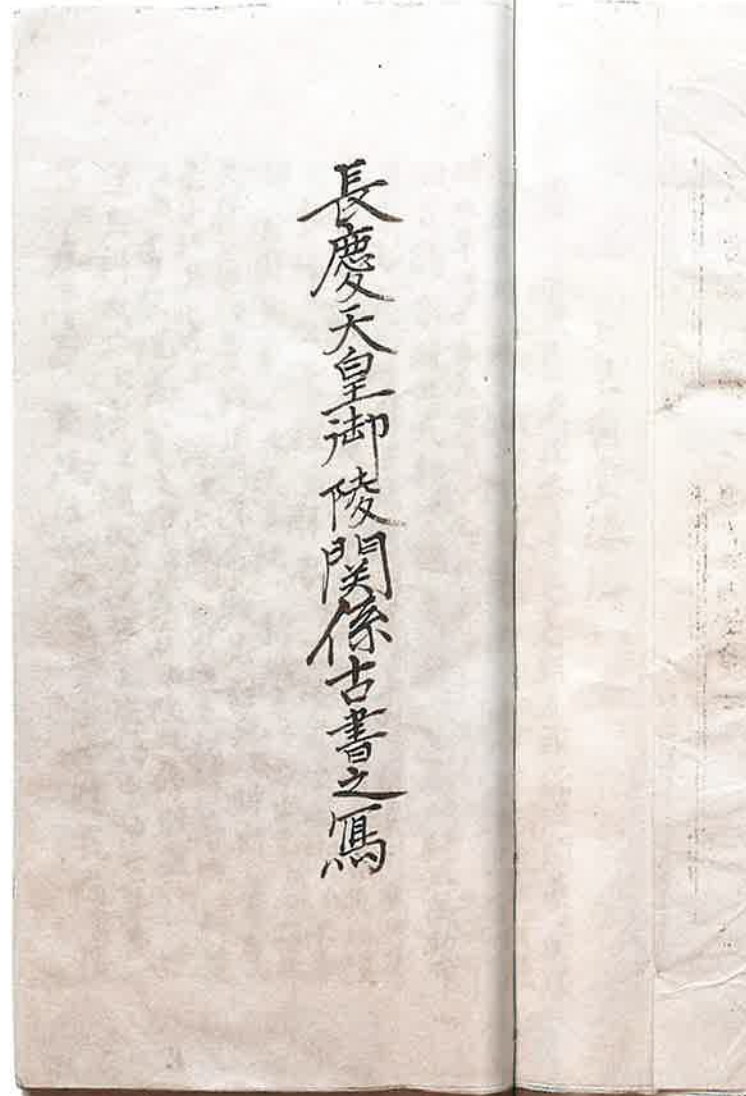
- 1月 青森県初の経済刑事22名任命、闇取締りを担当する。
- 3月 所得税法施行規則改正公布（勤務所得は源泉徴収となる）。
- 4月 国民体力法公布（17～19歳の男子の身体検査を義務化、体力手帳交付）。
価格形成中央委員会、米・味噌・醤油など10品目に切符制採用を決定。
- 7月 青森県でもりんご袋切符制採用。
- 8月 国民精神総動員本部、東京市内に「贅沢品は敵だ」の看板1,500本を配置。
- 11月 大日本帝国国民服令公布。
厚生省、10人以上の子を持つ優良多子家庭を表彰。

この年▶相馬村に天然痘流行、10人死亡。

相馬村の紙漉沢には長慶天皇御陵と伝えられる旧跡が残っています。長慶天皇は南北朝時代の南朝側天皇で、將軍足利氏のため悲劇の道をたどりまし。京都の寺に幽閉された後、そこを脱け出し、あちこち逃れながら北上、浪岡から紙漉沢に入ったといわれます。不運の天皇はここで18年間暮らし、崩御されたというもので、紙漉沢には長慶天皇にまつわる旧跡が各所に残っていますが、明治の頃までは天皇に関する確かな文献が残っていないため、皇位についたかも不明で、歴代天皇に数えるか学者の間でも論争があったのです。しかし、昭和元年には詔書により第98代に連ね、昭和19年には京都の嵯峨東陵を正式の御陵に決定したのでした。



●長慶天皇御陵墓参考地跡



●長慶天皇御陵関係古書の写し



●文庫本(昭和7年)



●戦争物の読み物(昭和9年)



●東奥年鑑十周年記念号(昭和13年)

この頃の主な出来事

昭和16年(1941)

- 3月 国民学校令公布(小学校を国民学校と改称)。
青森・弘前・八戸の旧3市で米の配給制実施。
 - 9月 八戸三社大祭の神輿渡御、時局柄中止。
 - 10月 乗用車のガソリン使用、全面的に禁止となる。
 - 11月 国民勤労報国協力令公布(男子14~40歳、未婚女子14~25歳に勤労奉仕義務法制化)。
 - 12月 日本軍、ハワイ真珠湾空襲開始。
- この年▶ 防空ずきん・もんぺ・ゲートル姿急増。

昭和17年(1942)

- 2月 衣料に点数切符制実施。
 - 5月 金属回収令により寺院の仏具・梵鐘等強制供出を命じられる。
 - 7月 厚生省、妊娠婦手帳規程実施し栄養品を特配。
 - 8月 内務省、1戸1カ所の簡易待避所(防空ごう)を作るよう奨励。
- この年▶ 「欲しがりません勝つまでは」の標語流行。
結核予防BCG接種が一般化。



●官製はがき

村の人々の衣類は木綿が全てといって良く、野良着だけは自家製の麻織物が普通でした。この頃にはゴム靴や地下足袋も使われていましたが、ほとんどの農家では冬の間に藁を編み、草履や草鞋、爪^{つめ}子を作り、これが普段の履き物になっていました。農具の柄や櫓、籠なども自家製で、農作業や日常生活に必要なものはほとんどが、藁と草と木の皮で作られていました。

子供たちの服装は着物が多く、洋服はせいぜい2〜3人のオオヤゲ(裕福な家)の子供が着ているくらいでした。冬は緋の綿入れの着物にハンチャ(半纏)かバオリ(羽織)を着て、前掛けをしていました。小学校2〜3年までピロタラシは^{たき}掛けをかけさせられていました。

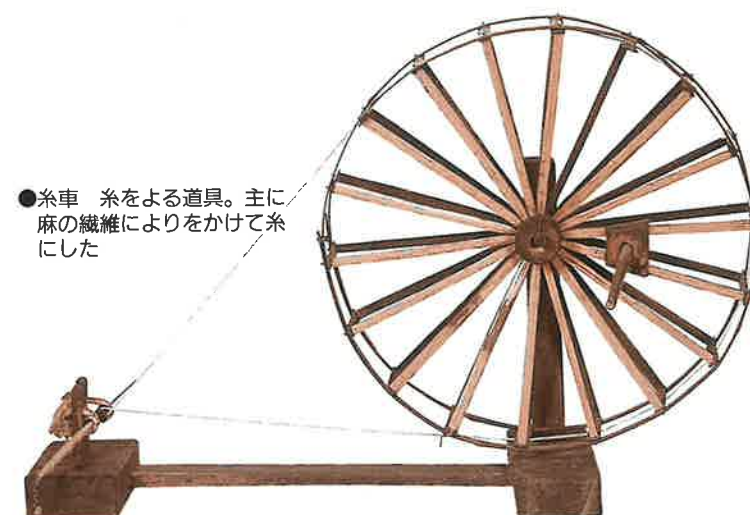
54



● 甑^{くさ} 米を蒸すときに使う



● 手取^{てと} 囲炉裏の上の「かぎのはな」につるした湯沸用の鉄瓶



● 糸車 糸をよる道具。主に麻の繊維によりをかけて糸にした



● 昭和15年頃のスキーとスキー靴



● 煎餅焼 家庭で煎餅を焼くときの道具



● 行火^{ぎやう} 炭を入れて手足を暖める

55



● 煙草盆 喫煙用の火入れ

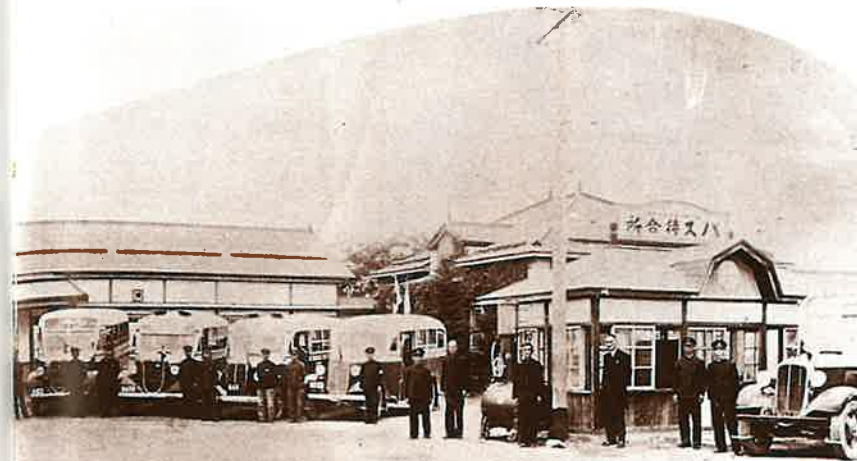
この時代、弘前市は津軽の交通運輸の中心地として、また、第8師団を背景にした軍都として栄えていました。昭和2年9月に弘南鉄道が開通し、弘前駅は既に開通していた国鉄黒石線、陸奥鉄道をつなぐ要となったのです。昭和6年に勃発した満州事変には第8師団が参戦し、駅前には出征兵士を見送る人たちが混雑しました。弘前駅や第8師団は和徳地区や富田地区といった新しい町を形成させることになり、弘前市がこれらを新たに編入したため市街地は南と東に大きく広がっていきました。一方、古い町並みにも学校や官庁、病院などが鉄筋コンクリートや防火壁仕上げて建てられ、近代的建築物は増えていきましたが、古い建物もまだ残っていたのです。



●駒越町から見る岩木橋と岩木山



●弘前招魂祭(弘前市)



●昭和12年の弘南バス待合所(弘前市)



(列参隊軍) 典祭社神國護縣森

●護国神社祭典(弘前市)

この頃の主な出来事

昭和18年(1943)

- 2月 英米語の雑誌名禁止される(サンデー⇒週刊毎日、エコノミスト⇒経済毎日など改題続出)。
- 3月 **りんご園に耕地転換令(供米国策に**
応ずるため相馬村ではりんごの木を
切り、粟・陸稻・馬鈴薯などに転換)。
- 4月 青森県でりんごの米英名撃滅改称運
動おこる(デリシャス⇒陽玉、ゴー
ルデンデリシャス⇒黄冠、スターキ
ング⇒太陽など公募決定)。
農林省、標準農村設定要綱を決定
(相馬村は県内4ヵ村とともに標準
農村の指定を受ける)。
- 6月 閣議、学徒戦時動員体制確立要綱を
決定(本土防衛のため軍事訓練と勤
労働員を徹底)。
内務省、防空待避施設の整備強制を
決定。
- 9月 上野動物園、空襲時の混乱に備え猛
獣を薬殺。
- 12月 文部省、学童の縁故疎開促進を発表。
徴兵適齢臨時特例公布(適齢を1年
引下げ)。
- この年▶農業団体法公布(産業組合と農会を
全国的に統合)。9月に中央農業会・
全国農業経済会設立。

昭和19年(1944)

- 2月 文部省、食糧増産に学徒500万人動
員を決定。
- 8月 士気高揚のため青森・弘前で8年ぶ
りにねぶた運行。
青森・弘前中学5年生300人、県外
軍需工場へ初の動員令。
- 9月 青森県、保存食糧としてイナゴ捕り
を勧める。
- 10月 農商省、松根油緊急増産対策措置要
綱を決定(ガソリン代用品増産のた
め)。
- この年▶戦況に関する流言急増。
下北半島脇野沢村で鱈大魚、1日15
万尾。

米英と戦闘開始

西太平洋の浪怒る

米京發) 大本營陸海軍部發表(八日午前六時) 二月八日午前六時 帝國陸海軍は本八日未明西太洋に於て米英軍と戰鬪狀態に入れり (外再錄)

宣戰の大詔渙發

【東京發】對米英開戰につき八日午前十一時頃くも左の大譁を演發あらせられた

[illegible]

東
奧
日
報

日 八
男 婦 用 人 大 小 均 宜
高 華 字 號 大 本 大 號
此 報 日 興 東 州 府 登
第 一 四 三 四 號 代 理 處

[illegible]

●上：髪油の広告 右：石鹼の広告

家庭で、お風呂に入る時
 めききで、お風呂に入る時
 笑ひながら、お風呂に入る時
 笑ひながら、お風呂に入る時

なめらかな
 お肌になる
 さらさらとした
 さらさらとした
 さらさらとした

石田四郎

—この頃の主な出来事—

昭和20年（1945）

3月 農商省、幽霊人口約100万人と推定、不正受配の全国調査へ。

5月 ドイツ軍、連合国への無条件降伏文書に署名。

7月 アメリカのグラマン機、青森・八戸
三沢空襲、青函連絡船6隻撃沈。
青森市をB29が空襲、死者1,763人。

8月 B29、広島に原爆投下、死者20数万人。
戦争終結。

9月 米艦ミズーリ号上で降伏文書に調印。
米第81師団、青森に上陸。

天皇、マッカーサーを訪問。各紙、訪問写真を掲載するが発売禁止に。街頭に闇市氾濫。

10月 初の戦後企画映画「そよ風」封切、
主題歌『りんごの歌』大流行。

第1回宝くじ売出し（1等10万円）。
12月 衆議院議員選挙法改正公布（婦人参

政、大選挙区制など)。
労働組合法公布。

農地調整法改正公布（第1次農地改革の基準法規）。

この年▶メチルアルコールによる死亡者続出。
輪タク登場、1948年頃まで活躍。

相馬村、出張診療所開設許可を申請。

ポツダム宣言を受

●戦争終結（昭和20年）

拜すも畏ぎ大詔を御放送

民の禍軫念戦争終結

萬世の爲太平開く御決意

聖上御發議に基く

前例なき御前會議

●戦争終結（昭和20年）

相馬村最高

中郡海兵検査

行軍があつて奮闘の陣が
 行はれ午後一時終了にた、こ
 の奮闘には郡下各村の幹部並
 押しで奮闘實施上の主要点を指
 示した。

相馬村最高

中郡海兵検査

中郡の海兵志願者検査は廿六日
 で終了した。最終日の受験した
 の相村は合格率七三・三を示し
 て今回検査の最高合格村を見せ
 した。この六日間に於ける郡下海
 兵検査の結果について、陸軍官庁
 及び中郡は將來の要員として併

せよ式の通り臨つた
 中郡の成績は全般的と見て、
 郡内に懸け方ではない、体格
 検査、見ると色目、近視、ト
 ラボウ等の服が多少つた
 間地方に比較して見ると中郡
 の志願者は勇氣に欠けたるも
 も少し元気なところが良い
 と思ふ、元氣がなつてと云ふ
 は今後とれば指をすることが知
 れない、指導の立場から見て
 の點に注意して各指導者
 して貰ひたい、次に指導者
 云は學力が低い點だ、それ
 は學科の成績が非常に悲し
 で教員の力を強める事、肝要
 志願者自体の時局知識、

足りない者がこの地方に於ける

●海兵検査で相馬村最高の合格率(昭和19年)

リング園耕作轉換

十六年後無許可燼反一千町步整理伐採
主要食糧作物を作付

[illegible]

●食糧増産のためりんご園を畑地に
転換(昭和18年)

●米英との開戦(昭和16年)

58

59

承父

昭和 戦後の相馬村のようす

第2次世界大戦の終結は相馬村にも大きな変動をもたらしました。農地改革法が成立すると小作地の解放が始まり、昭和22年4月5日には新憲法に基づく初の村長選が行なわれ、民選初代村長に中沢清吉が選ばれました。

相馬村は昭和17年に国民健康保険組合が設立されるまでは無医村で、病人が出ると弘前市や大浦村の病院まで行かなければなりません。医療制度も無く、知識も乏しく、また、多額の費用が必要であったため医師の診断を受けずに死亡した人も多かったのです。昭和20年からは本格的な医療活動が始まり、27年からは相馬村国保診療所が発足して、こうした状態が解消されたのです。

●復活第3回青弘間駅伝競走で優勝した相馬チーム（昭和22年）



●終戦後に発行された貨幣



●相馬村消防団第一分団（昭和20年代）



●舟打鉾山のストライキ（昭和30年代）

—この頃の主な出来事—

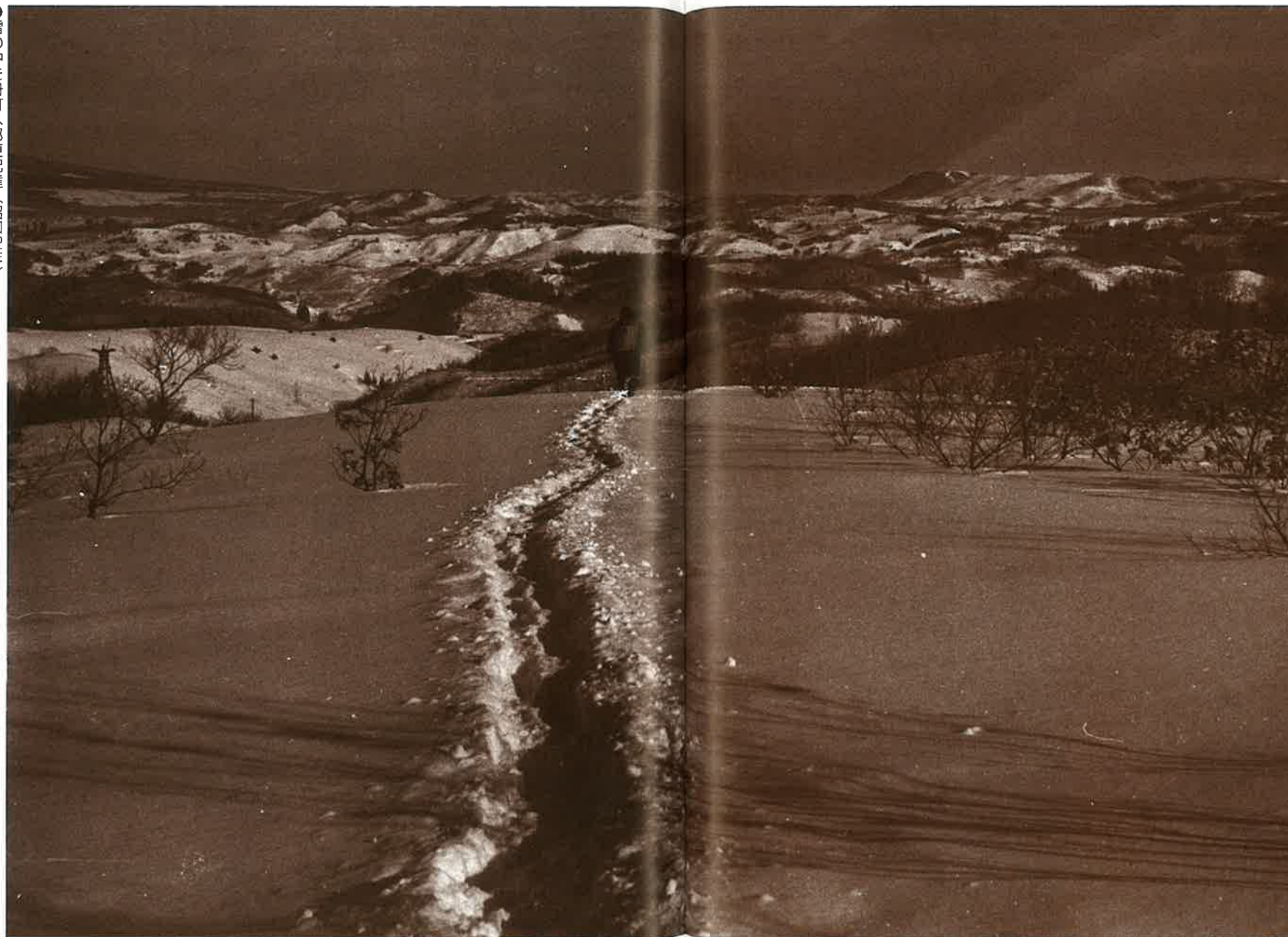
昭和21年（1946）

- 1月 天皇、神格化否定の詔書。
- 2月 金融緊急措置令（新円発行、旧円預貯金封鎖）。青森県警察部、県下一斉に隠匿物資の摘発開始。
- 5月 文部省体育局、戦前の'37年と'45年の児童体位比較を発表（都市国民学校6年女児は体重2.2kg減、身長4.4cm減。）飯米獲得人民大会（食糧メーデー）、大会代表が首相官邸にすわりこみ。
- 7月 青果物統制令によりりんご1箱81円に決定、闇屋暗躍。
- 10月 農地調整法改正・自作農創設特別措置法各公布（第2次農地改革）。
- 11月 日本国憲法公布。
- この年▶宝くじ・三角くじ・野球くじなどの売上げ約10億円。
発疹チフス大流行、患者3万2,366人（死者3,351人）、DDT強制散布。

昭和22年（1947）

- 1月 マッカーサー、2・1ゼネスト中止指令。
- 3月 第1回農地買収実施（11万8,371町歩）
- 4月 新制中学発足、国民学校初等科は小学校に改称。**相馬村では五所・相馬舟打鉾山の3中学が各小学校内に開設**（全国的に財源難のため中学校舎の建築はかどらず）。第1回統一地方選挙、津島文治が初の民選知事に。地方自治法公布。**相馬村は山田・前相馬・桐ノ木沢を加えた14行政区に区分。**
- 5月 日本国憲法公布。
- 7月 主食遅配全国平均20日、11月に遅配分打切りに。
- 8月 天皇、青森県内で巡幸。ねぶた祭復活。
- 9月 笠置シズ子、大阪梅田劇場で「東京ブギウギ」を歌い、大流行。
- この年▶国鉄運賃・郵便・電気・映画演劇・新聞・酒・たばこなど倍々で値上げ。**相馬村農業会解散、湯口・相馬・紙漣沢など5農業協同組合が設立。**

●雪の中を舟打へ郵便配達（昭和32年）



●五所に新築された相馬村国保診療所（昭和37年）



●藤沢より藍内山を望む（昭和38年）



●相馬村農業協同組合（昭和45年）



●土ヶ沢開拓パイロット事業（昭和42年）

—この頃の主な出来事—

昭和23年（1948）

- 1月 青森県産りんご暴騰（国光1箱当り市場平均1,300円、産地850円）。
 - 4月 新制高等学校発足（青森県では県立22校、公立12校）。
 - 5月 厚生省、母子手帳配布開始。
 - 6月 太宰治、玉川上水で入水自殺。
 - 11月 主食配給2合7勺となる。
 - 12月 年賀郵便の特別取扱い復活。
- この年▶郵便料金は4倍値上げ、鉄道・ラジオ・新聞など倍々の値上げ続く。

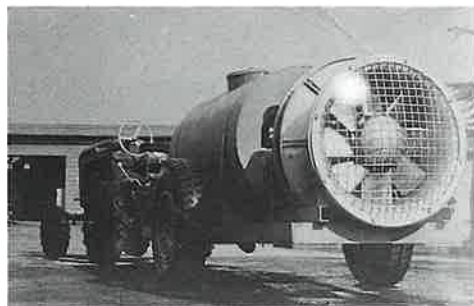
昭和24年（1949）

- 4月 GHQ、1ドル360円の単一為替レートを指示。
 - 5月 国立学校設置法公布、新制弘前大学発足。
 - 6月 土地改良法公布（耕作農民を主体とした土地改良事業の一本化）。年齢のとなえ方に関する法律公布（満で数える）。
 - 9月 関東を襲ったキティ台風、青森県でもりんごに被害、70万箱落果。
 - 11月 道路交通取締法改正施行（歩行者右側・車左側通行）。東京のデパートで初の青森県産りんご即売会。
 - 12月 お年玉つき年賀はがき発売。
- この年▶五所・相馬両中学を合併、相馬中学校とし、紙漣沢に独立校舎を建設。

昭和25年（1950）

- 1月 1,000円札発行。
 - 4月 農林省、地方別に農業試験場（7場）設置。
 - 6月 朝鮮戦争始まる。
 - 8月 警察予備隊令公布。
 - 11月 初のプロ野球日本選手権試合で毎日オリオンズ優勝。
 - 12月 年末たばこセールで、くじつき（特等50万円）、美人投票券つきたばこ発売。
- この年▶レッドパージ始まる。平均寿命が初めて60歳をこえる（女61.4歳、男58.0歳）。特需景気起る。

戦時中に荒廃したりんご園耕作転換令の影響で、津軽の各りんご園は荒廃していましたが、相馬村では戦時下でも農会の補助事業で堆肥作りが普及していたため、地力を衰えさせることはありませんでした。昭和26年には各集落で農事研究会やりんご研究会が結成され、青年団を退団した農業後継者や若者たちの心のよりどころになり、剪定講習会やりんご立木品評会といった研究活動が活発に続けられました。昭和36年には会員有志が集まったりんご園の共同防除組合が発足し、動力による薬剤散布が本格的に始まりました。相馬村に初めてスピードスプレーヤーが導入されたのはこの時で、これが普及するとともに作付面積も次第に増えていったのです。



●左上：相馬村りんご研究会（昭和28年）
●右上：収穫作業（昭和30年代）
●左下：相馬村初の索引タイプスピードスプレーヤー（昭和36年）
●右下：りんごの選果場（昭和30年代）

—この頃の主な出来事—

昭和26年（1951）

- 1月 NHK、第1回紅白歌合戦放送。
 - 3月 日本最初の色彩劇映画「カルメン故郷に帰る」封切。
 - 6月 第1回積雪寒冷地帯に青森県が指定される。
 - 9月 日米安全保障条約調印。
中央社会事業協議会「年寄の日」制定。
 - 10月 東北地方ご旅行の皇太子ご来青。
 - 12月 十和田湖・奥入瀬溪流が特別名物、小湊町の白鳥が特別天然記念物に指定。
- この年▶ **相馬村に農事研究会・りんご研究会発足。**

昭和27年（1952）

- 2月 第19回世界卓球選手権大会に日本初参加。青森県の佐藤博治が単で優勝。
 - 4月 NHK「君の名は」放送開始。
 - 5月 ボクシングの白井義男、世界フライ級戦で日本人初の世界選手権獲得。
 - 7月 農地法・農地法施行法各公布。
 - 9月 八丈島南方で海底噴火、明神礁発生。
 - 11月 市区町村教育委員会、一斉に発足。
- この年▶ スクーター流行。
相馬村森林組合設立。

昭和28年（1953）

- 2月 青森県出身の鏡里、第42代横綱に。NHK東京地区でテレビ本放送開始。
 - 6月 閣議、青函トンネル着工決定。
 - 7月 農林省、各市町村農業委員会に「農地改革の主旨を守れ」と要望（地主の土地取上げ傾向への警告）。
 - 8月 日本テレビ、民放初の放送開始。目屋ダム着工。
- この年▶ 街頭・店頭テレビ、人気を集める。

昭和29年（1954）

- 3月 第五福竜丸ビキニ事件。
 - 7月 黒石市制施行。
 - 8月 酸ヶ湯温泉厚生省の国民温泉に指定。
 - 9月 台風15号襲来、青函連絡船洞爺丸沈没、死者行方不明者1,155人。青森県内のりんご618万箱落果。
 - 10月 五所川原市制施行。
 - 11月 全国農業協同組合中央会設立。
- この年▶ この頃より電気洗濯機急速に普及。



●りんご袋を入れる前掛け



●りんご作業用手甲 布で作った手の甲をおおうもの



●手押型噴霧機

終戦で復員した働き手が加わり、戦後の復興は農村の食糧増産から始まりました。相馬村では技術指導者を招いて農業技術の普及をめざし、これが後の農業技術の発展普及に大きな力となったのです。相馬村は地形上、段々になった水田や区画の小さい湿田が多く、耕作の機械化とともに改良が望まれてきました。県営の事業実施を強く要望し、念願がかなって昭和43年に水田の区画整理が着工、5年の歳月をへて完成しましたが、この事業は村の景観を一変させる画期的なものとなりました。大型機械化による水稻の高度栽培集団が集団ごと、あるいは団地ごとに形成され、土地生産性が高い全国でも例を見ない集団化の進んだ村に発展したのです。



●農耕や運搬は馬が主役



●馬で代かき



●相馬村に初登場の耕運機で耕作



●夜なべで行われた脱穀作業

この頃の主な出来事

昭和30年（1955）

- 6月 初のアルミ貨（1円）発行。
- 7月 棟方志功、第3回サンパウロ=ビエンナーレ国際美術展に入賞。
自動車損害賠償保障法公布（強制保険制はじまる）。
- 10月 台風22号でりんご18万箱落果。

この年▶東芝、電気釜発売。

昭和31年（1956）

- 6月 棟方志功、第28回ベニス=ビエンナーレ国際美術展で大賞受賞。
- 7月 今官一、「壁の花」で第35回直木賞。
- 10月 三本木市が市名を十和田市に変更。

この年▶相馬村振興委員会組織される。

昭和32年（1957）

- 2月 相馬村で第5回農産物品評会開催。
- 4月 日本育英会、17府県で中学校優秀者に高校奨学金を保証する制度を実施。
- 10月 東京に就職した相馬村出身者を中心に「相馬会」組織。
- 12月 100円硬貨発行。

この年▶広報「そうま」創刊号発行。

昭和33年（1958）

- 2月 花乃花（初代）、第45代横綱に。
- 3月 全日本農民組合連合会結成。
- 8月 津軽地方に豪雨。岩木川氾濫し相馬村の被害は家屋半壊2戸、床上浸水17戸、耕地の被害面積約30ha。
- 9月 台風21号で土淵川氾濫。
- 11月 皇太子と正田美智子さんの婚約発表。
- 12月 1万円札発行。
東京タワー完工式。

この年▶8ミリ映写機、人気をよぶ。

昭和34年（1959）

- 1月 第3次南極観測隊、1年間基地に放置された犬の太郎と次郎の生存確認。
- 3月 NHK青森局テレビ放送開始。
- 4月 皇太子の結婚パレードをテレビ中継。
- 6月 厚生省、小児マヒを指定伝染病に指定（この頃、八戸市などで集団発生）。
- 9月 むつ市制施行。

この年▶湯口・相馬村・紙漉沢の3農協が合併し相馬村農協発足。

戦後の民主主義を確立するため教育制度も改革され、昭和22年には教育基本法・学校教育法が制定、新学制が始まりました。相馬村でも3つの国民学校は小学校と改称し、6・3制の最初の6ヶ年の課程をになう学校となり、従来の高等科は廃止されて3年課程の中学校が発足しました。こうして3小学校の校舎に五所中学校、相馬中学校、舟打中学校が同居することになったのです。校舎の問題は深刻でしたが、空襲を受けた地区では車輛を教室にしたり青空教室を行ったりで、相馬村は恵まれているほうでした。昭和24年には五所、相馬両中学校を合併して相馬中学校が創立し、昭和38年には舟打鉦山閉山で25年目にして舟打鉦山小中学校が閉校したのです。



●沢田分校開校式



●五所小学校航空写真



●五所小学校の生徒たち（昭和24年）



●中学2年用数学教科書（昭和26年）

—この頃の主な出来事—

昭和35年（1960）

- 1月 新安保条約調印、安保阻止デモ続く。
相馬青年団と五所青年団が統合し、相馬連合青年団結成。
- 3月 目屋ダム完工。
- 5月 太平洋岸にチリ津波来襲。八戸市では住家1,218戸、漁船485隻被害。
- 7月 初の婦人大臣中山マサ厚相誕生。
- 10月 浅沼稻次郎社会党委員長刺殺される。
- 12月 閣議、国民所得倍增計画を決定。
- この年▶電気冷蔵庫が普及し「三種の神器」が流行語になる。

昭和36年（1961）

- 1月 八戸市出身の三浦哲郎、「忍ぶ川」で芥川賞受賞。
- 6月 農業基本法公布（農業生産の選択的拡大・生産性向上・流通合理化など）。
- 11月 **五所小学校で完全給食を実施。**
- この年▶**相馬村でりんご共同防除組合設立、スピードスプレーヤーが村に初登場。**
相馬・藤沢の2農協が合併し、相馬第一農協を作る。

昭和37年（1962）

- 7月 厚生省、コレラ流行防止のため台湾バナナを輸入禁止に。
- 8月 堀江謙一、日本人で初めて小型ヨットで太平洋横断に成功。
- 9月 **相馬村の舟打鉦山、生産をやめる。**
- 11月 青函トンネル、竜飛で本格的ボーリング。
- 相馬中学校校舎新築落成する。**
- 12月 東京にスモッグが続き問題に。
- この年▶**相馬村国民健康保険診療所が五所に新築される。**

昭和38年（1963）

- 5月 警察庁、新道路標識を実施。
両陛下、第10回国土緑化大会のため平内町夜越山に。
- 7月 八戸市が新産業都市に指定される。
- 11月 大蔵省、にせ札に対処し新千円札を発行。
日米間テレビ宇宙中継に成功（ケネディ大統領暗殺ニュースを受信）。
- この年▶**舟打鉦山小中学校閉校。**

戦後、津軽の人々が心待ちにしていた弘前ねぶたが復活したのは昭和21年のこと。それから少しずつ質・量ともに充実し、28年には中郡からも74台が出陣するほどになりました。この年は相馬村でも若者たちが中心となってねぶたを製作し、弘前の町を練り歩きました。子供たちのヤーヤドーのかけ声が高らかに響き、ねぶた囃子の太鼓と笛がとどろき、勇壮な武者絵が夜空に躍動したのです。

もうひとつ、相馬村には藩政時代から獅子踊りが受け継がれています。戦時中は中断されましたが、戦後、郷土の見直し運動が始まってから有志青年によって再起され、現在は相馬・紙漉沢・黒滝・湯口の獅子踊りがそれぞれ舞技の伝承につとめています。



●相馬村のねぶた



●演芸大会



●村民体育祭仮装行列



●昭和20年代の相馬村の人形ねぶた

この頃の主な出来事

昭和39年 (1964)

- 2月 田舎館村出身の栃ノ海、第49代横綱に。3人目の郷土出身力士誕生。
- 4月 青森県教委、1965年度からの小学校教科書を全県一種制に決定。
- 6月 新潟地震発生、死者26人、全壊全焼2,250戸。
- 8月 青函トンネル本州側調査坑、三蔵で着工式。
- 9月 義宮様、津軽華子さんと結婚。常陸宮家を創立。
- 10月 東海道新幹線開業。
第18回オリンピック東京大会開催。
- 11月 青森空港開港。

この年▶ **相馬村農業協同組合誕生。**
五所・相馬両保育所開設。
湯口山に嶺開発有限会社砕石工場。

昭和40年 (1965)

- 4月 中学卒の高校進学率、全国平均が70%をこえる(最高東京86.8%、最低青森54.3%)。
- 8月 青森県初の有料道路「津軽岩木スカイライン」開通。
- 9月 国鉄、「みどりの窓口」開設。
- 10月 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞。

この年▶ **相馬村駐在所、現地に移転。**

昭和41年 (1966)

- 2月 全日空ボーイング 727 型機、東京湾に墜落、133人全員死亡。
- 6月 国民祝日法改正公布(敬老の日・体育の日)。建国記念の日は後に2月11日と決定。
ザ・ビートルズ、日本武道館で公演。
- 7月 青森市を中心に全国高校総合体育大会開催。
- 11月 **紙漉沢竜田神社を「上皇宮」に改名。**
- 12月 **相馬村役場新庁舎竣工。**

この年▶ 「ひのえうま」で出生数、前年比25%減、1900年以来の最少。
五所小学校創立80周年記念式典。
五所小学校プール完成。
五所に農協りんご貯蔵庫完成。



●家族でお山参詣。岩木山神社前にて



●お山参詣をする前相馬の人たち（昭和26年）



●お山参詣をする舟打鉢山の人たち



●岩木山神社前で奉納した獅子舞を披露



●旧正月15日に行われる沢田のろうそく祭り

この頃の主な出来事

昭和42年（1967）

- 2月 東京「相馬会」、10周年を記念し両親らの招待旅行会を実施。
- 6月 自動車保有台数 1,000万突破。
- 8月 井関農機㈱、自脱型コンバイン発売。科学技術庁、青森県むつ市を原子力母港の候補地に決定。
- 12月 テレビ受信契約数 2,000万突破、普及率83.1%。

この年▶農業就業人口19.3%と初めて20%を割る。

相馬小学校90周年記念式典。
相馬小学校プール完成。

昭和43年（1968）

- 4月 藍内分校閉校し、相馬小学校に統合。
- 5月 十勝沖地震。青森県の死者46人、被害 470億円。大塚食品、初のレトルト食品「ボンカレー」発売。
- 7月 郵便番号制度実施。
- 10月 東北本線全線電化・複線化。
- 12月 東京都府中市で3億円事件発生。

この年▶国民総生産、米国に次ぎ第2位に。厚木ナイロン工業、パンティストッキング発売、急速に普及。

一丁木簡易郵便局開局。
相馬土地改良設立。

昭和44年（1969）

- 1月 東大安田講堂封鎖解除。
- 5月 閣議、自主流通米制度を決定。
- 7月 アポロ11号月面着陸、人類として初めて月に立つ。
- 8月 成人式を夏の盆中に初めて行なう。三沢高校、甲子園で準優勝。
- 10月 厚生省、発ガン性の疑いで人工甘味料チクロの食品・医薬品に使用禁止。
- 11月 農林省、八郎潟など全国17か所の干拓地の開田事業打切決定。陸地開田も原則として打切に。
- 12月 日本BHC工業会、有機塩素系農薬BHC・DDTの製造中止を決定。

昭和28年8月に町村合併促進法が公布され、相馬村でも弘前市や、東目屋村・西目屋村との合併が提案されました。初めに弘前市と、次に東目屋村と、そして最終案として再び弘前市との合併計画が告示されましたが、昭和29年9月の議会で全会一致の否決となり、当時の宮川正久村長はこの旨を県に回答、現在に至っています。相馬村では以来、村域を確立するとともに村勢の振興に努力をしてきましたが、舟打鉾山閉山という悲況にも直面しました。昭和30年頃には190世帯800人という大集落だった舟打鉾山は税収面で村財政をうるおしていましたが、貿易自由化のあおりを受けて昭和36年に閉山し跡地は今、キャンプ場になっています。



●住民の足となった乗合馬車



●消防自動車購入記念



●農家の子供たち

この頃の主な出来事

昭和45年（1970）

- 1月 相馬中学校スキー部、県中学校体育大会で2部総合優勝。
- 3月 EXPO'70、大阪千里丘陵で開催。日航機よど号、赤軍派学生にハイジャックされる。
- 4月 過疎地域対策緊急措置法公布、相馬村も指定を受ける。
- 7月 原子力船「むつ」大湊港入港。
- 10月 農林省、牛乳汚染防止のためBHC・DDT・ドリン系剤の稲作に使用を禁止。
- 11月 棟方志功、青森県人初の文化勲章授章。

昭和46年（1971）

- 3月 むつ小川原開発公社設立。
- 6月 沖縄返還協定調印。
東北ポリマー株式会社、紙漣沢に進出し操業を始める。
- 7月 岩手県上空で自衛隊機が全日空機に追突、惨事となる。
- 8月 米国のドル防衛策で株価大暴落（ドルショック）。
- 9月 青森市で県政100年記念式典。
- 10月 NHK総合テレビ、全カラー化。
- 11月 青函トンネル本工事起工式。

昭和47年（1972）

- 1月 グアム島で太平洋戦争生き残り元陸軍軍曹横井庄一さんを保護。
- 2月 第11回冬季オリンピック札幌大会。連合赤軍の浅間山荘事件テレビ中継。
- 3月 奈良県明日香村の高松塚古墳で極彩色の壁画を発見。
- 4月 米の物価統制令適用廃止。
大蔵省、紙巻タバコの外箱に吸いすぎの注意表示を印刷することを決定。
- 5月 沖縄祖国復帰、沖縄県発足。
- 8月 5年にわたる県営園場整備事業完成。
- 9月 閣議、日本列島改造の最初として青森県むつ小川原開発計画を了承。
日中戦争状態終結・国交正常化。
- 11月 上野公園でパンダ初公開。

この年▶ 村営桜井スキー場用地購入。



●自宅で行なわれていた結婚式（昭和32年）

●東京に就職した村出身者が集う相馬会（昭和33年）



●村で初めての三輪自動車（昭和25年）



●酒席でくつろぐ弘前大学生と女給たち



●相馬村青年団



—この頃の主な出来事—

昭和48年（1973）

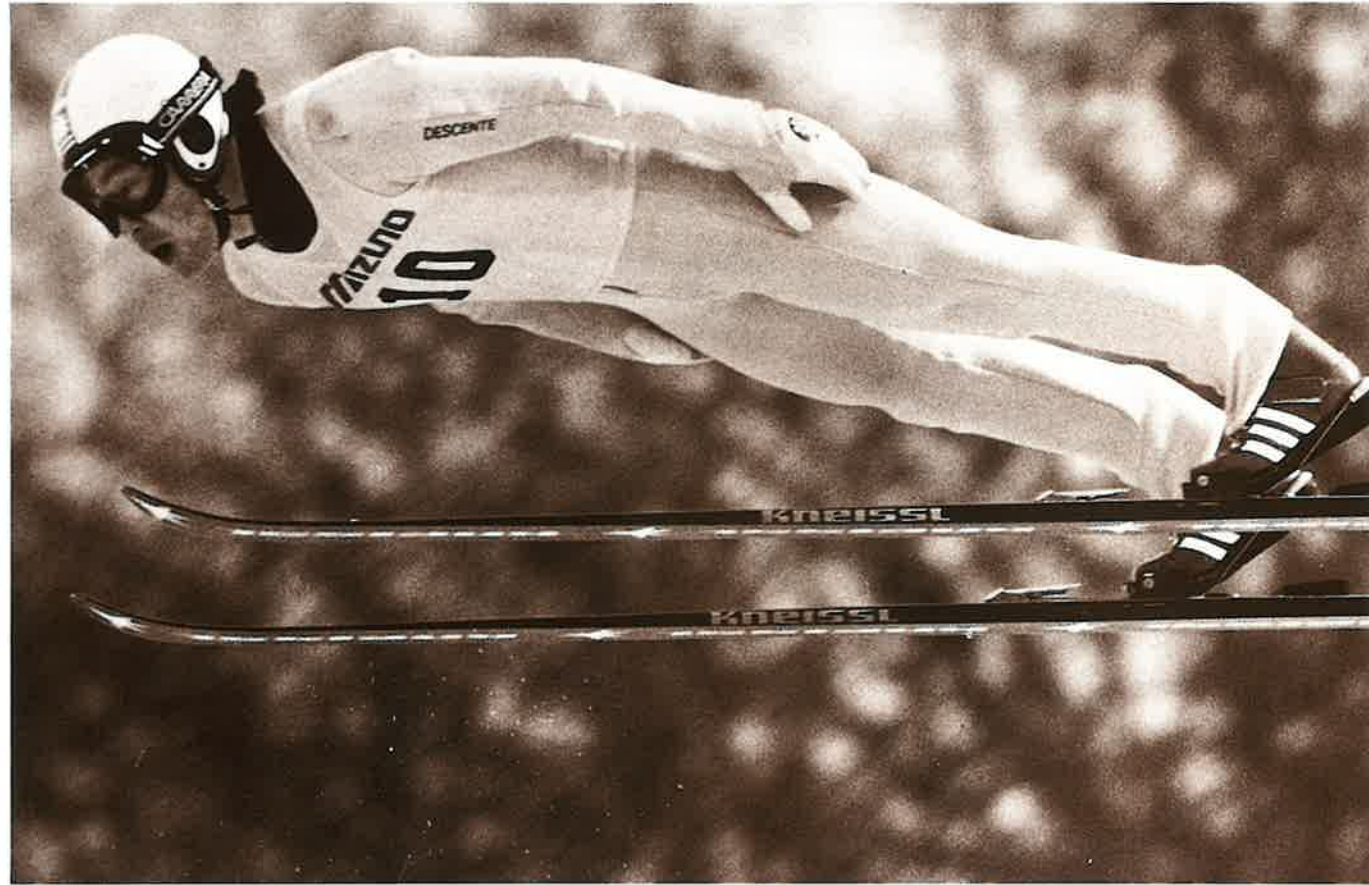
- 1月 ベトナム戦争終結。
- 2月 大蔵省、外国為替相場の変動幅制限を停止（変動相場制へ移行）。
- 4月 国民の祝日法改正公布（振替休日が決定）。
- 5月 4歳馬ハイセイコー、NHK杯で1着、10戦連勝。
- 7月 弘前市出身の長部日出雄、「津軽世去れ節」などで直木賞受賞。
- 相馬村総合開発センター新築落成。**
- 9月 中央線国電に老人・身体障害者優先席「シルバーシート」を指定。
- 10月 第1次石油危機はじまる。
江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞。
- この年▶ トイレットペーパー買いだめ騒ぎ。
相馬村農業協同組合本所、五所に竣工。

昭和49年（1974）

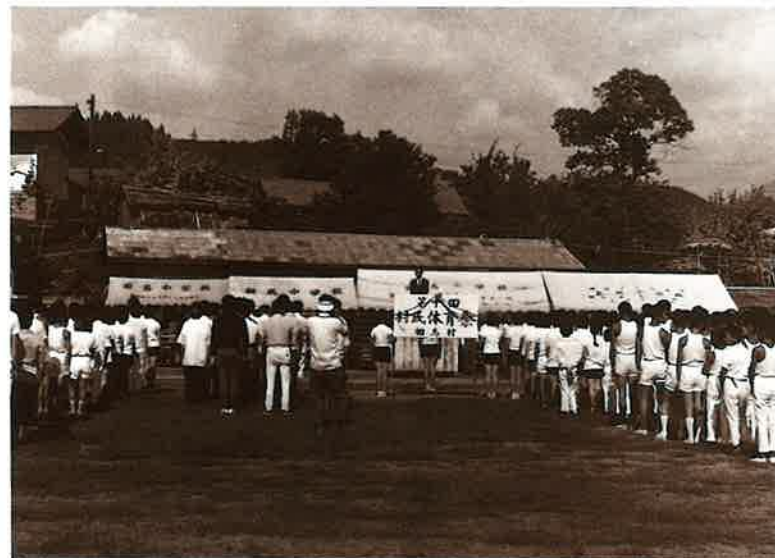
- 3月 フィリピン＝ルバング島から小野田寛郎元少尉帰国。
- 4月 津軽地方に集中豪雨。
- 8月 米大統領ニクソン、ウォーターゲート事件がもとで辞任。
原子力船「むつ」、洋上出力試験に強行出航、その後放射線漏れ事故発生。
相馬村商工会発足、事務所を総合開発センターにおく。
- 9月 青森りんご100年記念行事。
- 10月 前首相佐藤栄作ノーベル平和賞受賞。
- この年▶ ユリ＝グレーや少年のスプーン曲げなど超能力が話題。

昭和50年（1975）

- 2月 農林省、農業センサス実施。農家戸数495万3,000戸に減少。
- 5月 英国のエリザベス女王夫妻来日。
- 7月 沖縄国際海洋博覧会開会。
- 8月 **青森県津軽地方に豪雨。相馬村の被害は家屋全壊6、半壊4、家屋被害118戸、水田113.8ha、畑 7.3ha、被害総額8億5千万円。**
- 11月 国土庁、「過疎白書」を発表。過疎地域は全市町村数の1/3。
- この年▶ **青森県教育委員会、相馬村紙漉沢白山堂遺跡を発掘調査。**



●昭和55年のオリンピック・レークプラシッド大会出場の花田敏博選手



●第10回村民体育祭



●昭和51年国際ホルメンコーレンスキー距離競技大会の沢田和之選手



●昭和60年ユニバーシアード大会の成田収平選手



●上：昭和53年ノルディック世界選手権大会の古川牧雄選手
●右：ノルウェーの新聞に報道された古川選手たち



●雪上運動会

—この頃の主な出来事—

昭和51年（1976）

- 1月 鹿児島市で日本初の五つ子誕生。
相馬中学校スキー部、県大会男子の部で総合優勝。
 - 2月 ロッキード事件露頭。
 - 3月 閣議、国連海洋法会議で領海12海里経済水域200海里を条件つき承認へ。
 - 5月 農林省、水田総合利用対策実施要綱を通達（水稻を大豆などへ転作促進）。
 - 10月 台風17号で青森県下に強風、りんご落果、相馬村の被害は22万箱。
- この年▶戦後生れが日本の総人口の半数突破。
五所保育所新築移転。
相馬村農協りんご貯蔵センター竣工。

昭和52年（1977）

- 1月 青森県であすなる国体冬季大会開幕。
 - 2月 豪雪で青森県内各地に被害。
五所・相馬小学校を統合、相馬小学校校舎が新築落成。
 - 4月 第34回世界卓球大会で青森市出身の河野満選手優勝。
 - 8月 津軽地方に集中豪雨。相馬村の被害1,194万円、耕地の被害1億4,800万円。
 - 9月 王貞治、756本塁打を記録。国民栄誉賞第1号受賞。
 - 10月 あすなる国体秋季大会開幕。総合で青森県が天皇杯獲得。
 - 12月 相馬村僻地保健福祉館が竣工。
- この年▶平均寿命、男72.69歳、女77.95歳とともに世界1位。

昭和53年（1978）

- 4月 農林省、水田利用再編対策実施要綱を通達（水稻の大豆・飼料作物などへの転作を奨励する10ヵ年計画）。
 - 5月 大鰐町出身2代目花乃花、第56代横綱に。
 - 8月 峰越林道田代相馬線開通。
 - 9月 農林水産省、国有林野事業改善10ヵ年計画決定（47万haの造林など）。
 - 10月 沢田に生活改善センター竣工。
 - 12月 相馬村役場庁舎に接続して議会議事堂竣工。
- この年▶ガルブレイス「不確実性の時代」発売され、書名が時代語となる。

昭和50年8月20日、津軽地方を襲った局地的な豪雨は36市町村に大きな被害をもたらしました。相馬村では山々の樹木が押し流されて山肌を表わし、土石流が沢を削り、家屋や田畑、道路は水没という惨状でした。家屋の流失や浸水などを合せると被害総額は48億 3,000万円にも達する未曾有のものでしたが、役場や村の人たちはこれにめげず、一致して復旧工事に取りかかりました。しかし、完成まで今一步というところで昭和52年8月5日、再び集中豪雨に襲われ、空前の災禍となってしまいました。50年の災害からは辛うじて免れた地盤も崩壊流失するなど復旧工事のさなかに被害を受けたものが多く、最悪のものとなってしまったのです。

●昭和50年8月20日の集中豪雨で川が氾濫した山田地区



●昭和33年8月の集中豪雨で岩木川氾濫、橋を流失し舟で渡る。



●昭和30年7月4日の大水



●昭和33年9月の台風21号で落果

—この頃の主な出来事—

昭和54年（1979）

- 1月 世界最長の山岳トンネル、上越新幹線大清水トンネル貫通。
- 3月 電話のダイヤル即時通話完成。
- 6月 警察庁、車の運転免許所有者 4,000万人突破と発表。
- 7月 ソニー、ヘッドホンステレオ「ウォークマン」発売。
- 12月 青森ねぶたと弘前ねぶたが国の重要無形民俗文化財に指定。

この年▶「口裂け女」の流言広がる。

昭和50・52年の水害復旧事業完成。
相馬村保健センターと御所温泉竣工。
相馬小学校プール竣工。
交通死亡事故ゼロ「1,500日」達成。

昭和55年（1980）

- 3月 過疎地域振興特別措置法公布。過疎地域市町村は1,119。
- 6月 気象庁、毎朝、東京地方の降水確率予報を開始。
- 9月 青森県、水稲作況指数「47」の不良と発表。
- 11月 みちのく有料道路（青森・天間林間）開通。

この年▶**相馬村地籍調査、13年かかって完了。**
夜間照明つき五所運動広場完成。
桜井スキー場に顕彰碑建立。

昭和56年（1981）

- 3月 中国残留孤児を厚生省が招待、初めて正式来日する。
国鉄再建策に伴い赤字ローカル線77を廃止。青森県では大畑、黒石線。神戸ポートアイランド博覧会開幕。
- 6月 食糧管理法改正公布（通常時の米穀通帳廃止、贈答自由化）。
- 7月 広告付はがき（売価35円）発売。
- 11月 沖縄でヤンバルクイナ発見される。

この年▶**ソーラーシステム付き村営住宅2棟完成。**
相馬村、全国優良町村として表彰される。
農業後継者対策基金条例で8組認定。
相馬ダム起工式。

敗戦で軍隊の解体が行なわれたため、軍都としての弘前は消滅し、戦火を免れた広大な軍の施設や軍用地はそのまま学校として使われました。青森市の戦災で青森師範や青森医専が弘前に移転し、また、昭和24年に弘前大学が開学すると、今度は学都へと転身していきました。昭和30年には中郡11ヶ村と、32年には石川町と合併し、弘前市は人口が2.1倍、面積も27倍に増加、水田とりんご地帯を抱えた田園都市へと変わっていったのです。

岩木町は昭和30年に駒越村、大浦村、岩木村の3村が合併して新しい岩木村となり、6年後に町制を施行しました。古くから津軽の人々の信仰を集める岩木神社があり、お山参詣の地となっています。



●子供たちのお山参詣（岩木町）



●昭和20年代の賀田（岩木町）



●棟方志功の桜まつりポスター（昭和36年）



●昭和30年代の弘前城桜まつり（弘前市）



●昭和天皇ご来県し、黒石の青森県りんご試験場をご視察（昭和29年）



この頃の主な出来事

昭和57年（1982）

- 4月 500円硬貨発行。
- 8月 老人保健法公布（70歳以上の医療無料制廃止。外来月400円負担など）。
- 9月 国鉄のリニアモーターカー、有人浮上走行実験で世界初成功。
- 10月 全国農協大会（東京）、農産物輸入の自由化、梓拡大阻止特別決議を採択。
- 12月 米映画「E. T.」公開、観客1,000万人以上の映画興行史上最高記録に。

この年▶**交通事故死者ゼロ「2,500日」達成。**
相馬小学校聖火台「駿童の塔」完成。
舟打鉱山跡地にキャンプ場完成。
ソーラーシステム付き村営住宅2棟完成。
湯口支会、りんご無袋栽培で農林水産大臣賞受賞。

昭和58年（1983）

- 1月 青函トンネル先進導坑貫通。
- 5月 日本海中部地震発生、大津波で99人死亡。
- 7月 浪岡町出身、隆の里が第59代横綱に昇進。
- 12月 津軽地方の民俗行事「お山参詣」が国の重要無形文化財に指定される。

この年▶NHKの連続ドラマ「おしん」、忍耐、辛抱の代名詞となるほど話題に。
ソーラーシステム付き村営住宅、優良住宅団地として建設大臣賞受賞。
交通事故死者ゼロ「3,000日」達成。

昭和59年（1984）

- 8月 ロサンゼルスオリンピックで青森市出身、柔道の斉藤仁が金メダル獲得。
- 10月 患者1割負担の健保改正法施行。青森県の水稲作況指数109で全国1の大豊作と発表。
- 11月 新札（1万円・5千円・千円）発行（5千円札の肖像は青森県ゆかりの新渡戸稻造）。

この年▶グリコ・森永脅迫事件の毒物混入騒ぎで店頭から商品を回収する動きに。
誘致企業セキファッションズアオモリ、操業開始。
第1回健康マラソン大会実施。

昭和60年(1985) 3月 青函トンネル本坑、着工21年ぶりに貫通。
茨城県筑波研究学園都市の科学万博開幕。
4月 NTTと日本たばこ産業(株)が新発足。
8月 宇宙開発事業団、日本初の宇宙飛行士として女性1人を含む3人を発表。
日航機、群馬県山中に墜落し520人が死亡する世界最大の惨事に。
9月 改正道交法施行、シートベルト着用が義務づけられる。
この年▶女性の平均寿命、世界で初めて80歳を突破し81.18歳に。
交通死亡事故ゼロ「10年」達成。
覚応院開基600年記念祭。

昭和61年(1986) 1月 米のスペースシャトル・チャレンジャーが空中爆発。
4月 ソ連チェルノブイリ原子力発電所で史上最悪の原発事故発生。
7月 東北縦貫自動車道青森線、碓ヶ関・十和田I.C.開通。
9月 土井たか子、社会党委員長に選出。日本初の女性党首誕生。
この年▶相馬村消防団、県知事表彰旗受賞。
相馬村、保健事業推進で厚生大臣賞受賞。
相馬村商工会、オニテナガエビの養殖に取り組む。
相馬村高度集団栽培組合連絡協議会が「日本農業賞銀賞」を受賞。

昭和62年(1987) 3月 国鉄、105年の歴史を閉じる。
7月 新青森空港開港、待望のジェット機就航。
9月 台風12号、津軽地方のリンゴ園直撃(被害100億円超す)。
11月 ゴルフの岡本綾子、米プロゴルフツアーの賞金女王になる。
この年▶第1回相馬雪上祭。
交通死亡事故ゼロ「4,500日」達成。
過疎サミット、「長慶閣」で開催。
相馬村、県村民税完納優良村として県知事賞受賞。



●講談本(昭和33年)

女子に選挙権 選挙年齢男女共廿歳

憲法改正入着手(昭和20年10月)

20歳以上の男女全てに選挙権(昭和20年10月)

女子に選挙権を認め、選挙年齢を男女共に20歳とする。これは憲法改正の重要な一環として、10月1日の施行を期して、政府は関係省庁に指示を出した。この改正は、戦後の民主化を推進する上で、女性の政治的権利を保障する重要なステップと見られている。

新生議會御提案

近衛公直ちに起草着手

憲法改正入着手(昭和20年10月)

近衛文相は、新生議會の御提案に基づき、憲法改正の起草作業を直ちに着手する意向を示した。この提案は、戦後の日本国憲法の基礎となる重要な文書であり、国民の権利と義務を明確に定めることへの決意が反映されている。

農地改正法引延し策に釘

農民を格より解放 経済的悪条件を一掃

今、明春三月迄計畫提出を命令

マッカーサー司令部農業改革を命令(昭和20年12月)

農地改正法の施行を延期する策に、政府は釘を刺した。農民の経済的悪条件を一掃し、格より解放するため、明春三月までに計画を提出するよう命令が出された。これは、戦後の農業改革を進める上で、農民の利益を保護する重要な措置とされている。

農業改革の命令一下 最後の仕上急ぐ

議會、會期延長は短期間

農業改革の命令一下、最後の仕上を急ぐ。議會の會期延長は短期間と見られており、改革の完了を期している。これは、戦後の農業政策を迅速に実施するための重要なステップとされている。

松本國務大臣

農地改革断行に二針

松本國務大臣は、農地改革の断行に二針を打ち込む意向を示した。これは、戦後の農業政策を迅速に実施するための重要なステップとされている。

農地改革断行に二針

松本國務大臣は、農地改革の断行に二針を打ち込む意向を示した。これは、戦後の農業政策を迅速に実施するための重要なステップとされている。

女子に選挙権 選挙年齢男女共廿歳

憲法改正入着手(昭和20年10月)

20歳以上の男女全てに選挙権(昭和20年10月)

女子に選挙権を認め、選挙年齢を男女共に20歳とする。これは憲法改正の重要な一環として、10月1日の施行を期して、政府は関係省庁に指示を出した。この改正は、戦後の民主化を推進する上で、女性の政治的権利を保障する重要なステップと見られている。

新生議會御提案

近衛公直ちに起草着手

憲法改正入着手(昭和20年10月)

近衛文相は、新生議會の御提案に基づき、憲法改正の起草作業を直ちに着手する意向を示した。この提案は、戦後の日本国憲法の基礎となる重要な文書であり、国民の権利と義務を明確に定めることへの決意が反映されている。

農地改正法引延し策に釘

農民を格より解放 経済的悪条件を一掃

今、明春三月迄計畫提出を命令

マッカーサー司令部農業改革を命令(昭和20年12月)

農地改正法の施行を延期する策に、政府は釘を刺した。農民の経済的悪条件を一掃し、格より解放するため、明春三月までに計画を提出するよう命令が出された。これは、戦後の農業改革を進める上で、農民の利益を保護する重要な措置とされている。

農業改革の命令一下 最後の仕上急ぐ

議會、會期延長は短期間

農業改革の命令一下、最後の仕上を急ぐ。議會の會期延長は短期間と見られており、改革の完了を期している。これは、戦後の農業政策を迅速に実施するための重要なステップとされている。

農地改正法引延し策に釘

農民を格より解放 経済的悪条件を一掃

今、明春三月迄計畫提出を命令

マッカーサー司令部農業改革を命令(昭和20年12月)

農地改正法の施行を延期する策に、政府は釘を刺した。農民の経済的悪条件を一掃し、格より解放するため、明春三月までに計画を提出するよう命令が出された。これは、戦後の農業改革を進める上で、農民の利益を保護する重要な措置とされている。

農業改革の命令一下 最後の仕上急ぐ

議會、會期延長は短期間

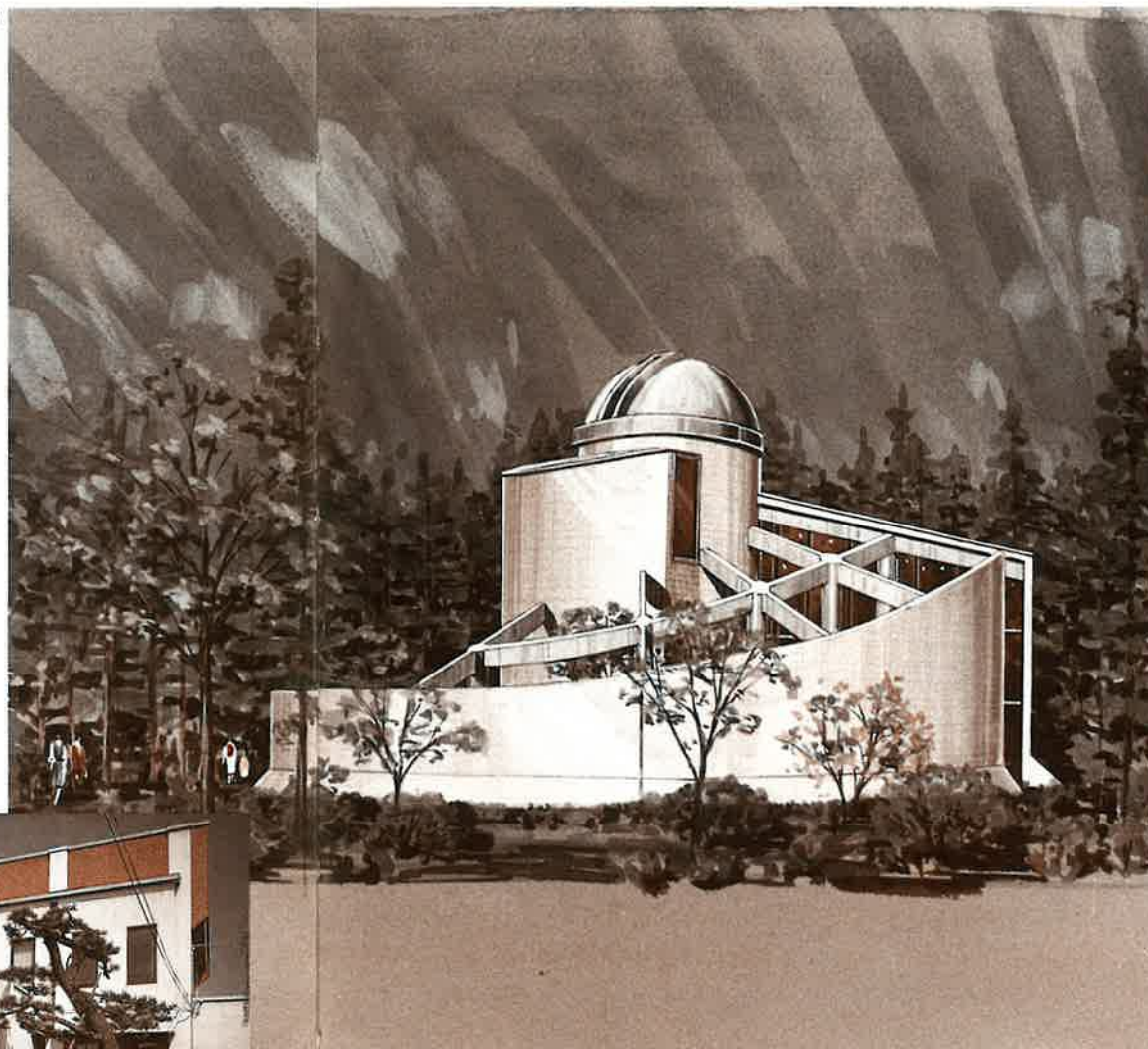
農業改革の命令一下、最後の仕上を急ぐ。議會の會期延長は短期間と見られており、改革の完了を期している。これは、戦後の農業政策を迅速に実施するための重要なステップとされている。

昭和から平成へ | 現在の相馬村

戦後の農地改革により、相馬村では自作・自立農家が確立し、りんご栽培では広大なりんご園が開発され、水稻栽培では高度栽培集団が組織されるなど目ざましい発展を見せました。

村制施行 100年を迎え、相馬村では壮大な「星と森のロマンピア」計画を進めています。これは、相馬村が宇宙に一つしかない村であり、無限の可能性を持った村であることに誇りを持ち、知ってもらうため、村民と国内外の人々が交流できる場を提供しようというものです。美しい星空をあおげるこの村でふれあいを深めていこうというものです。昭和が「米とりんごの村づくり」なら、平成は「心の村づくり」が相馬村の目標といえるかも知れません。

●星と森のロマンピア天体観測施設「銀河」



—|この頃の主な出来事|—

昭和63年（1988）

- 3月 世界最長の青函トンネル・津軽海峡線開業、青函連絡船80年の歴史に幕。
 - 4月 本州と四国を結ぶ瀬戸大橋開通。
 - 6月 リクルート疑惑発覚、政・官・財界への株のばらまき明るみに。
日米経済摩擦による牛肉、オレンジ自由化へ。
 - 7月 青函博覧会開幕。
 - 9月 天皇陛下、大量吐血し重病続く。
ソウルオリンピックで青森市出身の柔道選手、斉藤仁がオリンピック2連覇。
 - 12月 税制改革関連六法案可決、消費税導入へ。
今給黎教子、女性で世界初の太平洋単独ヨット往復に成功。
- この年▶ 八戸市出身の作家三浦哲郎、青森県人初の芸術院会員に選ばれる。
相馬村りんご産業振興基金創設。
そうま炉辺懇談会が発足。
「星と森のロマンピア」起工。

昭和64年（1989）平成元年

- 1月 天皇崩御、平成と改元。
 - 2月 昭和天皇大喪の礼。
- この年▶ **相馬村・村制施行百周年記念事業実施。**
紙漣沢地区下水処理供用開始。



●百周年を迎えた相馬村の現庁舎



●村政の重要事項を審議する議会議事堂



●高齢化社会を支える老人福祉センター



●村民の健康を管理する国民診療所



●紙漣沢地区下水処理場



●百周年記念植樹

相馬村の年表

明治8 湯口に石堂小学開校。
9 相馬小学・紙漣沢小学開校。
12 戸長役場費、相馬・紙漣沢・湯口とも38円4厘。
21 紙漣沢竜田神社山頂の墓地在長慶天皇御陵墓伝説参考地に指定。
22 市町村制施行、紙漣沢・五所・水木在家・坂市・藤沢・相馬・大助・沢田・藍内の9大字で相馬村誕生。間もなく9大字に湯口・黒滝が相馬村村域に編入し11大字で相馬村となる。公選初代村長は中沢清十郎村長。
25 国吉小林区署を田代小林区署と改称。
26 大日本農会主催の農産品評会が盛岡で開催され、りんご出品。
32 玉成高等小学校開校（中津軽郡10か村組合立）
33 湯口・目屋小林区署が開校。
34 五所に相馬郵便局開局。
41 紙漣沢・御陵墓伝説参考地の“伝説”2字削除。
43 相馬村農会主催第1会相馬村立毛（農作物）品評会開催。沢田に冬期季節分教場が開設され沢田分校の前身となる。

大正3 相馬村で木炭改良のため樽炭、雑木炭の区分などの規約を作成。相馬村信用購売組合発足。
4 相馬村青年団創設。西目屋村砂子瀬村駐在、森林主事斎藤勝之氏遭難。土手町蓬萊橋架替、竣工式に湯口獅子舞参加。
8 相馬字山田に大火、21戸を焼失。
13 紙漣沢水力発電所竣工。
15 長慶天皇の御在位を勅命で認定。

昭和4 日本曹達株式会社が舟打鉦山の権利を獲得。
6 石堂・紙漣沢の両尋常小学校を統合し、五所に相馬第一尋常小学校をつくる。
8 舟打鉦山の発展により村行政区に舟打を加える。
11 中津軽郡木炭生産組合を結成、理事長に成田栄吉(西目屋)就任。
13 相馬第二尋常小学校舟打鉦山分教場発足。
18 りんご園耕作転換令が出る。相馬村では生産者割合反別にりんごの木を切り、粟・陸稲・馬鈴薯などに転換。

産業組合が農会と合体して農業会となる。
相馬国民学校沢田分校が類焼。
相馬村県内4か村とともに標準農村の指定を受ける。
20 終戦。相馬村の出張診療所開設の許可を申請。
22 新制中学校発足。相馬村では五所・相馬・舟打鉦山の3中学校が各小学校内に開設。地方自治法により山田・前相馬・桐ノ木沢を加え当村は15行政区に区分される。村農業会が解散し、村内に湯口・相馬村(五所)・紙漣沢・藤沢・相馬の5農業協同組合が設立。村警防団が消防団と改称。農地委員会による第1回農地回収が相馬村で実施。
24 五所・相馬の両中学校を合併して相馬中学校と称し、紙漣沢に独立校舎を建設。
26 村内に農事研究会、りんご研究会発足。
27 相馬村森林組合設立。
31 相馬村振興委員会組織。
32 相馬村連合青年団復活。

広報「そうま」創刊号発行。
第5回農産物品評会開催。
東京に就職した村出身者を中心に東京で相馬会組織。
33 集中豪雨で岩木川氾濫。台風21号で土淵川氾濫。相馬村の被害は家屋半壊2戸、床上浸水17戸、耕地の被害面積約30ha。
34 舟打鉦山小中学校校舎増築。宮川正久村長逝去。後任に溝江頭一村長当選。湯口・相馬村・紙漣沢の3農協が合併し相馬村農協発足。
35 相馬小学校でJRCリーダーシップトレーニングセンター開催。相馬青年団と五所青年団が統合して相馬連合青年団結成。
36 りんご共同防除組合設立、村内にスピードスプレーヤー初登場。五所小学校で完全給食を実施。相馬・藤沢の2農協が合併し、相馬第一農協となる。
37 五所に相馬村国民健康保険診療所を新築。舟打鉦山生産をやめる。相馬中学校校舎新築落成。

舟打鉦山小中学校閉校。
39 相馬村農業協同組合が誕生。五所・相馬両保育所開設。湯口山に嶺開発有限会社砕石場。
40 相馬村駐在所現在地に移転。
41 五所小学校創立90周年記念式典。五所小学校プール完成。紙漣沢竜田神社「上皇宮」に改名。相馬村役場新庁舎竣工。五所に農協りんご貯蔵庫完成。
42 相馬小学校90周年記念式典。東京「相馬会」が10周年を記念して両親51人、来賓10人を招待し、4泊5日の旅行会実施。相馬小学校プール完成。
43 一丁木簡易郵便局開局。相馬土地改良設立。藍内分校閉校、相馬小学校に統合。
44 はじめて成人式を盆中に行なう。
45 相馬中学校スキー部がむつ市の県中学校体育大会で2部総合優勝。過疎地域対策緊急措置法により過疎地域の指定。
46 東北ポリマー株式会社が紙漣沢に進出、操業開始。
47 村営桜井スキー場用地購入。5か年にわたる県営園場整備事

業完成。
48 相馬村総合開発センター新築落成。相馬村農業協同組合本所、五所に竣工。
49 相馬村商工会が発足、事務所を総合開発センターにおく。
50 県教育委員会、紙漣沢白山堂遺跡を発掘調査。津軽地方集中豪雨。相馬村の被害は家屋全壊6、半壊4、家屋被害118戸、水田113.8ha、畑7.3ha、被害総額8億5,414万円。
51 台風17号の強風のため相馬村のりんご落果22万箱。五所保育所新築移転。相馬中学校スキー部、県大会男子の部で総合優勝。村農協りんご貯蔵センター竣工。
52 津軽地方に集中豪雨。相馬村の被害1,194万円、耕地の被害1億4,800万円にのぼる。五所・相馬小学校を統合して相馬小学校が新築落成。相馬村僻地保健福祉館が竣工。
53 峰越林道田代相馬線開通。沢田に生活改善センター設立。

歴代村長



初代
生駒慶宮



2～6代
中沢清十郎



7代
宇庭愛世



8～10代
沢田平作



11代
山内勝美



12代
成田重雄



13・18～20代
宮川正久



14～16代
溝江信正

- 庁舎に接続して議会議事堂竣工。
 54 昭和50・52年の災害復旧事業完成。
 相馬村道「茶臼線」の改良工事完成。
 碎石道路のダンプ公害解決。
 湯泉源の掘削に成功し、相馬村
 保健センターと御所温泉竣工。
 相馬小学校プール竣工。
 藍内地区簡易水道完成。
 交通死亡事故ゼロ「1,500日」達成。
 相馬村農協農機具センターと湯
 口ガソリンスタンド竣工。
 55 13年かかって相馬村地籍調査完
 了、地籍図完成。
 夜間照明つき五所運動広場完成。
 相馬村農協相馬支所と紙漉沢に
 米の貯蔵庫完成。
 桜井スキー場に顕彰碑建立。
 56 ソーラーシステム付き村営住宅
 2棟(24戸)完成。
 全国優良町村として表彰。
 五所地区に流雪溝完成。
 農業後継者対策基金条例で8組
 認定。
 相馬ダム起工式。
 57 村営食堂「活亭」オープン。
 交通死亡事故ゼロ「2,500日」達成。
 相馬小学校聖火台「駿童の塔」完成。

- 舟打鉱山跡地にキャンプ場完成。
 ソーラーシステム付き村営住宅
 2棟(28戸)完成。
 弘南バス水木在家線開通。
 湯口支会、りんご無袋栽培で農
 林水産大臣賞受賞。
 58 ソーラーシステム付き村営住宅、
 優良住宅団地として建設大臣賞
 受賞。
 交通死亡事故ゼロ「3,000日」達成。
 多目的研修集会施設「長慶閣」完成。
 農免道路相馬線開通。
 59 誘致企業「セキファッションズ
 アオモリ」操業開始。
 利雪創造センター竣工。
 第1回健康マラソン大会。
 第1回総合防災訓練。
 東北ポリマー株式会社全焼。
 村商工会「ろうそく祭り」に共催。
 60 交通死亡事故ゼロ「10年」達成。
 覚応院開基 600年記念祭。
 湯口・黒滝・五所地区特定環境
 保全公共下水道事業スタート。
 歯科併設国保診療所竣工。
 61 御所温泉新規温泉源掘削。
 新しいスクールバス1台購入。
 村消防団、県知事表彰旗受賞。

- 保養センター「力荘」浴槽等改築。
 農村総合整備計画策定。
 保健事業推進で厚生大臣賞受賞。
 村商工会、オニテナガエビ養殖
 に取り組む。
 相馬村高度集団栽培組合連絡協
 議会「日本農業賞銀賞」受賞。
 62 第1回相馬雪上祭
 村婦人会合併15周年記念式典。
 交通死亡事故ゼロ「4,500日」達成。
 相馬小学校統合10周年記念式典。
 「過疎サミット」長慶閣で開かれる。
 県村民税完納優良村として県知
 事賞受賞。
 63 相馬村初の農業経営士誕生。
 りんご産業振興基金創設。
 そうま炉辺懇談会が発足。
 「星と森のロマンピア」起工。
 下水道紙漉沢処理施設起工。
 「村民カレンダー」全国広報広聴
 コンクール第4席入選。
 平成1 村制施行百周年記念事業実施。

あとかき

1世紀の歩みを残す『相馬百年』の資料収集に当り、村民のみなさん、県関係の方々、そして役場職員のみなさんにはご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、こうして集まった資料ですが、年代不詳のものがほとんど。これを戦争を知らない世代の私が分類し、昔の髪形や服装等から判断したため、間違いがあるのではという不安は隠しきれません。最初にイメージしていた村民の生活はもちろん、警察や郵便局、農協などの百年の歴史も折り込みなかったのですが、資料不足のために掲載できなかったのが残念でなりません。

明治・大正・戦前戦中そして戦後と各般にわたる説明文を書くために私自身もずいぶん勉強させられ、今まで興味のわかかった分野の本にも挑戦し、良い経験をすることができました。

特に「子供の遊び」を調べてみて、新人類はファミコン好きと言われていますが、相馬村の子供たちは泥んこの「串だんご」やクローバの「花輪編み」など昔からの遊びを誰れに教わるともなく自然に覚え、遊んでいるのを見てうれしくもあり、一方、古くからの津軽の遊びを親たちはもっと教えてやらなければ、という思いにも駆られました。時間的な制約がある中で、後半はねじり鉢巻の毎日が続きましたが、共に頑張ってくださった編集・印刷スタッフのみなさんにも心からお礼を申し上げます。

平成元年8月1日

編集担当 浅利 いつ子



17代
中 沢 清 吉



21～23代
溝 江 顕 一



24～25代
種 沢 武 美



26～現在
山 内 一 義

■発行日

1989年(平成元年)8月1日

■発行者

相馬村役場

青森県中津軽郡相馬村大字五所字野沢41-1
☎0172-84-2111

■構成・編集

相馬村役場企画財政課

青森コロニー印刷デザイン編集室

グラフィックデザイン制作室STUFF

■写真撮影

鹿内 英二(青森コロニー印刷)

■印刷製本

青森コロニー印刷

青森県青森市幸畑字松元62-3



紙漉沢

大助

安田

水木在家

前相馬

沢田

五所

相馬

藍内

黒滝

藤沢

桐ノ木沢

湯口

坂市

山田

1989年現在の相馬村行政区